

特集

留学生が見た世界の中の日本

目次

- グラビア …… 01
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 02
- 新年のご挨拶 理事長 江田昌佑 …… 03
- 新年名刺交換 …… 04～06
- 特集 留学生が見た世界の中の日本 …… 07～12
- グローバル化の効用 筑波大副学長 清水一彦 …… 12～13
- 「東京都茗溪会」が発足しました …… 14～17
- 茗溪会の公開講座から
「この秋、楽しむ宿根サルビア」西川綾子 …… 18
「諺（ことわざ）から探る英語圏の文化」藤原保明 …… 19
- 第12回（平成25年）茗溪会の顕彰《茗溪賞》 …… 20
- 茗溪学園だより …… 21
- 平成25年秋の叙勲 おめでとうございます …… 22
- 桐の葉のつどい …… 22～23
- 追悼録 …… 24
- 著書紹介 …… 24
- 本部だより …… 25
- 編集後記 …… 25

茗溪



正月

2014

平成26年

no.1080



竣工なった筑波大学総合体育館

太陽と花と蜜蜂が織りなす代表的健康食品

● 蜂蜜・ローヤルゼリー・プロポリス・花粉 ●

品 名	容 量	税込特価	参 考 説 明
アカシア 純粋はちみつ (ハンガリー産)	1kg ポリ	¥ 2,100	「ハンガリー産アカシアはちみつ」は花の香りが高く、まろやかな風味が特徴です。果糖が多いので長期に保存してもほとんど結晶しません。
	2kg ポリ	¥ 3,900	
	7.2kg ポリ	¥14,000	
ヴァイタル48 (生ローヤルゼリー)	40g	¥ 6,000	ヴァイタル48 (生) は栄養豊富で新鮮な生ローヤルゼリーをそのまま瓶詰めしました。無添加で生ものですので、冷蔵庫で保管してください。
	100g	¥12,900	
ゴールド200 (粒状ローヤルゼリー)	100粒	¥ 5,000	ゴールド200は1粒に生ローヤルゼリー換算200mgを含有しております。ローヤルゼリーには、豊富な栄養成分がバランスよく含まれています。
	300粒	¥11,900	
ビーポリス (ローヤルゼリー+プロポリス)	25g (約100粒)	¥ 7,500	ローヤルゼリーを配合した、粒状のプロポリスで小社が独自に開発しました。(特許第1736694号)
ユーカリナ (粒状プロポリス)	75g (約300粒)	¥ 6,000	樹脂や蜜ろう、花粉の他に十種類の成分が含まれています。その中でもフラボノイドが注目されています。蜂精は、香気成分が強いので、最初は抵抗感があります。使い始めは、ユーカリナをお勧めします。
蜂 精 (プロポリスエキス)	30ml	¥10,000	
アピスポーレン (花粉)	100g	¥ 3,000	花粉は生命を育むのに必要な栄養素をバランスよく含む完全食品で、蜂蜜・ローヤルゼリーの成分は全て花粉に由来します。

商品仕様



※5,000円未満ご注文は実費運賃をお願いします。



日本養蜂のバイオニア

埼玉養蜂株式会社

健康友の会

〒364-0001

埼玉県北本市深井4-23

TEL: 0120-924-383

FAX: 048-543-5269

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

KAIT



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL: 046-291-3002 URL: <http://www.kait.jp/>

理事長 中部 謙一郎
理 事 河野 隆二(S47農)
顧 問 清水 進一(S43理 数) (神奈川茗溪会 会長)
監査室 矢野 正人(S53院修 農) (同 事務局長)



科学的なセンスをもつ
管理栄養士を養成
応用バイオ科学部
栄養生命科学科
〔管理栄養士養成課程〕

工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
〔管理栄養士養成課程〕

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科



記念講演
講師 氏家幹人氏



会長 高橋基之氏



平成25年11月24(日)
「東京都茗溪会」
発足

P.14 ~ 17 参照

年頭挨拶



筑波大学長

永田 恭介

明けましておめでとうございます。

昨年は、開学40+101周年を祝うとともに、関連行事も目白押しでした。茗溪会のみなさまにも多岐にわたって大変ご尽力をいただき、改めて感謝を申し上げます。

およそ1年ほど前に、「教育再生」を柱の一つとして掲げた新しい国の方針のもと、「Japan is back」の掛け声とともに各種の改革的な試みが始まり、将来への希望が持てるような状況も生まれつつあります。高等教育機関における教育・研究を推し進めるアイデアも盛り込まれています。

これらを考えるとき、新たな年を迎え、筑波大学の改革に向けて身の引き締まる思いです。101年に及ぶ前身校の歴史を背負い、「新構想大学」として開学して以来、40年の歳月を経て、大学をめぐる状況は大きく様変わりし、40年前当時の「新構想」の多くはもはや「新構想」とは呼べないのが現状です。そこで、本学は「新構想大学」から「未来構想大学」へとバージョンアップし、未来へのフロンティアであり続けるためにさらなる挑戦と冒険を重ねているところです。

本学のこれからの新たな挑戦の具体例について、最近の状況なども踏まえて述べさせていただきます。教育に

関する改革のキーワードは、**国際的な通用性を持ったシステムの開発**です。これまでに公表してきた学士課程、教養教育、大学院教育に関する「筑波スタンダード」は、国内における大学教育実践の標準を先導する一つだと考えています。

昨年4月からは、本学は3学期制から2学期制へと移行しました。国際的に多くの大学が2学期制を採用しているために、インターンシップへの参加やスポーツ大会への参加などを含めた学生交流に支障が出ている場合もありました。そこで、春学期・秋学期をそれぞれ3区分し、2学期+各学期3モジュール（1モジュールは5週）制度を創成し、柔軟性の高い2学期制に移行することにより、教学上のメリットをなるべく減らさずに、学生が被るデメリットの解消を目指しました。

これらの取組みは、国際的な通用性のある教育システムへの改革に繋がっています。現在は、国際的に互換性のある学位システム、すなわちこれまでの組織中心の考え方から脱却し、学生の視点に立脚した「学位プログラム」への全学的な移行に取組んでいます。国際的な通用性・信頼性の向上、国際競争力の強化、国際的に活躍できる人材の養成、学生・教員等の流動性の向上等に繋がるよう、更なる発展に向け大学一体となって努力して参ります。

研究で目指さなければならない重要なポイントの一つは、**国際的に高い水準での成果を生むための改革**です。いわゆる総合特別区域法に基づく「総合特別区域」として、本学が関わる提案として、「つくば国際戦略総合特区」および「健康長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」の2件が選定されています。また、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）として「国際統合睡眠医科学推進機構」が、国際科学イノベーション拠点整備事業（COI）として「高細精医療イノベーション拠点」がそれぞれ選定されております。

昨年8月には、研究大学強化促進事業に採択されました。これは、文部科学省が事前に選定した27大学の中か

ら書類審査とヒアリング審査に基づいて22大学を選定し、今年度から10年間重点的に研究支援を行う事業です。

本学の研究力強化に資する施策の一環として、基礎科学の分野では、独自の人事枠を持ち大型で長期的な研究を計画的に推進できる重点研究センターを2つ、既存の研究センターから選りすぐって創りました。さらに、重点研究センターを目指す研究グループとして学術センターを認定し、重点的な支援を進めています。

来年度には、イノベーション創出に直結する社会還元型の研究センターにも支援を行っていくと考えています。これらは開学以来の大改革であり、目下、学内規定の改正や研究支援体制の整備を鋭意進めているところで

す。

以上について言葉を変えるならば、**教育と研究のグローバル化推進**ということになります。これをいっそう支援する目的で、昨年にはグローバル・コモンズ機構を設置しました。これは、国際化拠点整備事業（グローバル30）やグローバル人材育成推進事業をサポートし、「国際性が日常化したキャンパス」の構築を推進するための実務を行う組織です。国際性の日常化に向けてグローバル・コモンズは、日本人学生と留学生の交流の場として、また各種イベントを行う場として利用されるほか、学生が気軽に立ち寄って、留学に関する情報を入手したり、相談にのってもらったりすることができる場所です。

来年度からは、日本人学生の留学をよりいっそう推進していくための計画を立てているところです。

「未来構想大学」のスピリットを表現したスローガン「IMAGINE THE FUTURE.」とともに、今年も新たな知を継続的に創造する拠点として、知の創造を先導する人材育成拠点として、また国内外のイノベーションを先導する大学として、全力を尽くして参ります。引き続き皆様方のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。本年もどうぞよろしく願いいたします。

新年のご挨拶



一般社団法人
茗溪会理事長

江田 昌佑

明けましておめでとうございます。

全国の地域、職域のみならず、新しい抱負を持って新しい年を迎えられたことと存じます。

私どもの茗溪会は一般社団法人として、母校・筑波大学の同窓会としての性格を今まで以上にはつきりさせるための「新法人」に衣替えをしてから、二回目の新年を迎えることになりました。

茗溪会と致しましては、昨年の「新年のご挨拶」に際しまして、事業の基本的な柱として

- 1、同窓会としての互助事業の充実
- 2、公益目的事業の充実
- 3、大学への支援の充実

等を実施して参りたいと私は申しました。

そのため、会費制度の改正、地域、職域等の単位組織の活性化のための活動支援の改善、また、世代を繋ぐ事業として『茗溪フェロー』の創設をすること等を図り、『茗溪会拡充キャンペーン』を推進して参りたいとの考えを披露致しました。

また、そのためには、「5%の会員増加」、「5%の収入増加」そして「5%の経費削減」を実行に移すべきとの考えを申しました。そして、このキャンペーンを『ゴー・

5・go』作戦と名付けて私たちの合言葉として、各年の目標として進めて参りました。

これらの諸事業は、本年も引き続いて進め、なお、一段の充実を図って参りたいと存じます。

昨年は私どもにとりましても、誠に嬉しいニュースが伝えられました。

それは、新年早々に筑波大学ラグビー部が全国大学選手権で、国立大学としては初めて「準優勝」を果たしたと報じられたことでございます。

この朗報を受けて、茗溪会は大学との共催で『筑波大学ラグビーの軌跡』と題する講演と企画展を公開講座として茗溪会館で開催致しました。この催しには、関係者を始め多くの一般の方がたにも来場していただきました。ラグビー界に関係した私と致しましても感謝しております。

夢は広がりまして、大学において箱根駅伝大会への復帰が目論まれていることとございます。

ちなみに、筑波大学と前身校は89回の大会のうち、62回の出場を果たし、出場回数では10傑のうちの9位というポジションを保って参りました。

箱根駅伝への復活出場ということは、なかなか難しいことではありましようが、大学としては5年以内に出場を、また、10年以内には上位を目指しているといわれます。茗溪会としても、是非応援したいと存じます。

応援と申しますと、昨秋に、2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催することが決定されました。年が改まりますと、開催時に一步近付き、アスリートは一段の緊張の度合いが高まります。筑波大学の在学生は勿論、卒業生にも出場が期待される候補者も多く、私たち同窓生と致しましても応援する気持ちが高まって参ります。

また、同じく昨秋には『開学40+101周年』記念式典が大学において開催されました。

母校・筑波大学は、前身諸学校の100年を越える長い伝統に裏打ちされながら「開かれた大学」としての新構想のもとで、既に40年の充実した年月を経過致しました。

いま、筑波大学は前進する新たな姿として、「未来構想大学」としての更なる挑戦を重ねているとのことでございます。

それは国際的にも高い水準での成果を生む改革を踏まえた果敢なる挑戦であろうと存じます。

またそれは、「教育と研究のグローバル化推進」ということにある」と、永田恭介学長は年頭のご挨拶で言っておられ、今後の筑波大学の長期ビジョンとしての壮大な抱負が、実績と自信と夢に裏打ちされたものとして見受けられます。

それらは当然のことに、大学関係者全体の方がたが共有するものとして共感しております。

永田学長はまた、新たな「知」を継続的に創造する拠点として、そして、それらを先導する人材育成の拠点として、あるいはまた、国内外のイノベーションを先導する大学として、全力を尽くすと言っておられます。

このことは、同じ茗溪の水を飲み、同じ釜の飯を食べ合った私たち同窓の者としても、出来る限りの力を尽くして支えて参らなければならないと思う次第です。

それだけに、私たち自身が推進しております『茗溪会拡充キャンペーン』を、手堅く継続して行くことの必要性を一層、痛感するところであります。

このキャンペーン活動で今年の目標を達成するためには、ただただ会員のみならず一人一人のご理解とご協力をお願いすること切なるものでございます。

茗溪会と致しましては、足もとを固めながら、会員のみならずと一緒に、母校・筑波大学の明日への充実した展開を支えるためにも、力強い一歩を進めて行こうとの思いを新たにすることでございます。

よろしくご協力の程をお願い申し上げます。私の新年のご挨拶とさせていただきます。

今年もよろしくお願ひいたします

一般社団法人
茗 溪 会

茗溪会 代議員 (葛飾) 東京聖栄大学 渡 邊 (草間) 悟 理事・教授 (昭和56年卒筑二農) (昭和62年卒筑博農) 〒124-8530 葛飾区西新小岩1-4-6 TEL 03-3692-0211 FAX 03-3692-0213	茗溪会長野県支部 支部長 堀 金 達 郎 (昭和52年卒教大応数) 〒380-8515 長野市上松1-16-12 長野県長野高等学校内 TEL 026-234-1215	京都茗溪会 会 長 塩 見 均 (昭和47年卒東京教育大学数学科) (会長連絡先) 〒612-0004 京都市伏見区深草西川原町36-1 コトーハイツ伏見稲荷A-127 事務局 川 合 英 之 (昭和56年卒筑波大学体育専門学群)
大阪茗溪会 会 長 松本 秀範 (昭和53年) 修士林卒 森ノ宮医療大学 広報室参事 〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16 理事長 岡村多加志 (昭和55年) 筑一群自然卒 大阪府立久米田高等学校 校長 〒596-0802 大阪府岸和田市額原町1100	奈良茗溪会 会 長 藤 善 尚 憲 (昭和31年卒教大体) (昭和33年卒教大教) 〒632-0094 奈良県天理市市裁町310-2 TEL・FAX 0743-63-0339	茗溪会長崎支部 会 長 浦 下 悦 二 (昭和50年卒東京教育大学) (体育学部武道学科) (連絡先) 〒856-0046 長崎県大村市木場2-545-2
茗溪会熊本支部 会 長 蔵 田 勇 治 (昭和52年卒東京教育大学) (体育学部体育学科) (連絡先) 〒861-5513 熊本市北区鶴羽田町三丁目2-25 TEL 090-3326-1926	一般財団法人 筑波学都資金財団 理事長 堀 内 昭 三 (昭和35年卒) 教大法政 事務局 石 山 隆 行 理事・監事・評議員一同 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152	一般財団法人筑波学都資金財団 筑波大学学生宿舎管理事務所 所 長 武 井 秀 一 (昭和51年卒理学部化学科) 〒305-0005 茨城県つくば市天久保二丁目1-1 TEL 029-858-0131
一般社団法人 茗溪会 理事長 江 田 昌 佑 (昭和30年卒教大体) 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗溪会 副理事長 井 口 武 雄 (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険(株) 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111	一般社団法人 茗溪会 常務理事 田 中 正 造 事務局 長 (昭和36年卒教大健) 事務局 〒112-0012 文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136
国立大学法人筑波大学 副学長・理事 (教育担当) 教育学博士 阿 江 通 良 (昭和48年教大体育) 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL 029-853-2010 FAX 029-853-6310 E-mail:ae@taiiku.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学数理 物質系教授 新 井 達 郎 (昭和56年博士課程化学研究科修了) TEL 029-853-4315 arai@chem.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 鵜 沢 力 (昭和63年卒筑波大学社会学類) tmuzawa@ma.kitanet.ne.jp
一般社団法人 茗溪会 理事 大 勝 信 明 (昭和26年卒文四) 墨林書道院特別顧問	一般社団法人 茗溪会 理事 川 田 孝 一 (昭和39年教大総農科) 桜美林大学入試広報センター 〒194-0294 町田市常磐町3758	一般社団法人 茗溪会 理事 神 林 喬 (昭和40年教大教育学科卒) 〒225-0023 横浜市青葉区大場町360-51
一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学 生命環境系教授 佐 藤 忍 生命環境学群長 教育企画室長 (昭和60年筑波大博士課程生物) TEL 029-853-4672 email:satoh.shinobu.ga@u.tsukuba.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 茗溪学園 理事長 西 野 虎之介 (昭和28年卒教大農経科) (自宅) 〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場92 TEL 029-285-7786	一般社団法人 茗溪会 理事 茗溪学園中学校高等学校 校 長 柴 田 淳 (昭和52年教体卒) (昭和56年筑修体) 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611
一般社団法人 茗溪会 理事 福岡経営労務事務所 所長 社会保険労務士 福 岡 一 雄 (昭和32年卒教大法政) 〒125-0042 東京都葛飾区金町3-27-3 TEL 047-361-2618 FAX 047-361-2643	飯塚公認会計士・税理士事務所 公認会計士・飯 塚 良 成 税理士 (茗溪会監事) (事務所) 〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台14-7 TEL 045-988-0846 FAX 045-988-0847 mail:nqf46967@nifty.com	辯護士 高 橋 三 郎 (茗溪会監事) (事務所) 〒113-0033 東京都文京区本郷3-9-4 本郷大関ビル7階 TLC 本郷 TEL 03-5962-5908 (直通) 03-3811-2231 (代表) (自宅) 〒270-0021 千葉県松戸市小金原3-9-4 TEL・FAX 047-345-6070

謹賀新年 平成26年

神奈川茗溪会 顧問 指 宿 良 昭 (昭和30年卒教大教育・教育) 〒252-0317 相模原市南区御園3-26-13 TEL 042-744-5784	神奈川茗溪会 神奈川県立高等学校退職校長会(有朋会) 前会長 榊 原 武 雄 (昭和30年卒教大理・地理) 〒259-1331 秦野市堀西985-15 TEL 0463-87-1413	神奈川茗溪会 神奈川県立高等学校退職校長会(有朋会) 元事務局長 石 原 京 三 (昭和32年卒教大教育・心理) 〒248-0001 鎌倉市十二所200 TEL 0467-23-2694
神奈川茗溪会 顧問 尾 上 惣 一 (昭和34年卒教大文・国文) 〒254-0812 平塚市松風町6-4 TEL 0463-22-2045	神奈川茗溪会 顧問 神奈川県立高等学校退職校長会(有朋会) 会 長 進 藤 隆 博 (昭和34年卒教大理・地理) 〒241-0821 横浜市旭区二俣川2-57 TEL 045-391-3681	神奈川茗溪会 顧問 須 山 英 治 (昭和40年卒教大文・史学) 〒251-0042 藤沢市辻堂新町2-6-16 TEL 0466-36-3573
神奈川茗溪会 総合学園ヒューマンアカデミー横浜校 校 長 石 渡 哲 男 (昭和42年卒教大理・物理) (連絡先) 総合学園ヒューマンアカデミー横浜校 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-33-8	神奈川県教育委員会教育局 指導部長 大 畑 多津雄 (昭和52年卒教大数学) (勤務先) 〒231-8509 横浜市中区日本大通33 TEL 045-210-1111(代)	(公財)神奈川県体育協会 副会長 新 井 康 稔 (昭和41年卒 教大体) 専務理事 高 橋 悟 (昭和48年卒 教大体) (協会) 〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町3-1 県立スポーツ会館内 TEL 045-311-0653
神奈川県立体育センター 事業部長 大 石 進 (昭和56年卒筑体) 〒251-0871 藤沢市善行7-1-2 TEL 0466-81-2570(代)	神奈川県桐心会(茗溪体育の会) 会 長 落 信 久 (昭和43年卒 教大体) 副会長 矢 島 博 (昭和45年卒 教大体) (会長自宅) 〒227-0054 神奈川県秦野市緑町6-24 TEL 0463-81-1578	神奈川茗溪会 若手交流会 代 表 乾 高 章 (平成7年卒筑一自) (勤務先) NTT 東日本 神奈川支店 TEL 045-224-3877 E-mail:t.inui@kanagawa.east.ntt.co.jp
神奈川茗溪会 AE 海老名・綾瀬法律事務所 弁護士 中 道 徹 (昭和58年卒筑二生) 〒243-0432 海老名市中央1-8-3 えびすビル松本4 階 TEL 046-205-3780 FAX 046-205-3788 mail: toru.nakamichi@ebaya.com	茗溪会北海道支部 支部長 沖 野 隼 夫 (昭和41年卒体育学部体育学科) (連絡先 鶴野 和憲) 札幌市厚別区厚別中央 5 条 4 丁目8-12-504 TEL 011-802-8760	茗溪会宮城支部 支部長 蘇 武 徳 行 (昭和51年卒体武) 事務局 〒982-8790 宮城県仙台市太白区緑が丘2-13-13 (事務局長 佐々木 洋)

茗溪会千葉支部(公立高等学校校長)			
千葉県立柏中央高等学校	校長	伊集院 光 慶	(昭和51年卒教大体)
千葉県立千葉中学校・千葉高等学校	校長	高 岡 正 幸	(昭和52年卒教大漢)
千葉県立松戸馬橋高等学校	校長	木 村 香 住	(昭和52年卒教大体)
千葉県立船橋二和高等学校	校長	鈴 木 祐 弘	(昭和53年卒教大心)
千葉県立幕張総合高等学校	校長	大久保 利 宏	(昭和52年卒教大健)
千葉県立匝瑳高等学校	校長	布留川 厚	(昭和52年卒教大物)
千葉県立柏井高等学校	校長	内 藤 秀 子	(昭和53年卒筑体)
千葉県立土気高等学校	校長	網 代 伸	(昭和53年卒筑体)
千葉県立沼南高等学校	校長	蛭 名 一 則	(昭和53年卒筑体)
千葉県立君津青葉高等学校	校長	根 本 進	(昭和54年卒筑二農)
千葉県立成東高等学校	校長	猿 渡 末 治	(昭和55年卒筑一自)
千葉県立鎌ヶ谷西高等学校	校長	畑 順 子	(昭和54年卒筑芸)
千葉県立生浜高等学校	校長	百 瀬 明 宏	(昭和55年卒筑一人文)
千葉県立若松高等学校	校長	佐 藤 宰	(昭和57年卒筑二人間)
千葉県立稲毛高等学校・附属中学校	校長	山 本 昭 裕	(昭和55年卒筑体)
習志野市立習志野高等学校	校長	由 利 聡	(昭和55年卒筑体)
銚子市立銚子高等学校	校長	長谷川 茂	(昭和55年卒筑一自)
船橋市立船橋高等学校	校長	山 崎 成 夫	(昭和56年卒筑体)

謹賀新年 平成26年

今年もよろしく願いいたします

一般社団法人
茗 溪 会

神奈川茗溪会 会 長 清 水 進 一 (昭和43年卒 教大数) 事務局長 矢 野 正 人 (昭和53年卒 修院農) (会長自宅) 〒254-0075 神奈川県平塚市中原1-25-24 TEL 0463-31-3350	神奈川茗溪会 副会長 大 島 恵 子 (昭和46年卒教大理・生物) 〒229-0006 相模原市中央区矢部新町3-27-418 TEL 042-715-0317	VERITAS TRANSCENDENTALIS 神奈川県立相模原青陵高等学校 校 長 佐 藤 教 道 (昭和56年卒筑一人文) (学校) 〒252-0325 神奈川県相模原市南区新磯野468 TEL 042-747-0531 FAX 042-740-2848
第一希望の進路実現100% 神奈川県立舞岡高等学校 校 長 瀬 木 明 (昭和52年卒教大応数) (学校) 〒244-0814 神奈川県横浜市戸塚区南舞岡3-36-1 TEL 045-823-8410 FAX 045-825-3573	伸ばす学力 鍛える人間力 神奈川県立松陽高等学校 校 長 佐 藤 到 (昭和57年卒筑大第三) (学校) 〒245-0016 神奈川県横浜市泉区和泉町7713番地 TEL 045-803-3036 FAX 045-802-9935	キャリアと国際理解の座間総合 神奈川県立座間総合高等学校 校 長 加 藤 充 洋 (昭和56年卒筑一社会) (学校) 〒252-0013 神奈川県座間市栗原2487 TEL 046-253-2920 FAX 046-252-6020
「上南 SFP」を基軸に「地域等連携教育」を推進 神奈川県立上溝南高等学校 校 長 山 田 和 彦 (昭和53年卒教大農経) (学校) 〒252-0243 神奈川県相模原市中央区上溝269 TEL 042-778-1981 FAX 042-778-4057	50周年へ！ SSHを超えて新たな伝統を築く 神奈川県立柏陽高等学校 校 長 山 本 明 利 (昭和51年卒教大応物) (学校) 〒247-0004 神奈川県横浜市栄区柏陽1-1 TEL 045-892-2105 FAX 045-895-0856	きめ細かな学習・進路・生活指導 神奈川県立二宮高等学校 校 長 三 橋 史 朗 (昭和54年卒筑大一自) (学校) 〒259-0134 神奈川県中郡二宮町一色1363 TEL 0463-71-3215 FAX 0463-73-3027
地域にねざす学力向上進学重点校 神奈川県立相模原高等学校 校 長 南 敏 章 (昭和52年卒教大数学) (学校) 〒252-0242 神奈川県相模原市中央区横山1-7-20 TEL 042-752-4133 FAX 042-753-6348	日本の良識を育てる 神奈川県立麻生高等学校 校 長 宮 代 哲 彦 (昭和51年卒教大漢文) (学校) 〒215-0006 神奈川県川崎市麻生区金程3-4-1 TEL 044-966-7766 FAX 044-953-9234	『清新潑刺』歓声あふれる学舎 神奈川県立百合丘高等学校 校 長 玉 井 正 史 (昭和56年卒筑一人文) (学校) 〒214-0036 神奈川県川崎市多摩区南生田4-2-1 TEL 044-977-8955 FAX 044-976-8735
29年間の集大成へ そして新たな創造へ 神奈川県立相模大野高等学校 神奈川県立相模原中等教育学校 校 長 加 賀 大 学 (昭和52年卒教大日史) (学校) 〒252-0303 神奈川県相模原市南区相模大野4-1-1 相模大野 TEL 042-749-1155 FAX 042-740-2852 相模原中等 TEL 042-749-1279 FAX 042-740-2852	夢“かない(金井)”高校 神奈川県立金井高等学校 校 長 林 忠 (昭和58年卒筑一自然) (学校) 〒244-0845 神奈川県横浜市栄区金井町100 TEL 045-852-4721 FAX 045-852-7748	スポーツする喜びを味わい、発信する 神奈川県立山北高等学校 校 長 山 崎 紀 彦 (昭和51年卒教大農経) (昭和53年修教大院農学) (学校) 〒258-0111 神奈川県足柄上郡山北町2370 TEL 0465-75-0828 FAX 0465-75-1770
地域に根ざした教育実践 神奈川県立秦野曽屋高等学校 校 長 児 島 義 明 (昭和51年卒教大体育) (学校) 〒257-0031 神奈川県秦野市曽屋3613-1 TEL 0463-82-4000 FAX 0463-83-5342	文武両道教育の実践!! 神奈川県立海老名高等学校 校 長 小 泉 いづみ (昭和51年卒教大体育) (学校) 〒243-0422 神奈川県海老名市中新田1-26-1 TEL 046-232-2231 FAX 046-231-1762	人間教育の原点 農業を基盤にした総合学科教育 神奈川県立吉田島総合高等学校 校 長 掛 原 豊 (昭和54年卒筑二農林) (学校) 〒258-0021 神奈川県足柄上郡開成町吉田島281 TEL 0465-82-0151 FAX 0465-82-7684
 一般社団法人 神奈川県サッカー協会 会 長 宇 野 勝 (昭和42年卒教大体育・健) (事務所) 〒252-0804 藤沢市湘南台1-6-7小宮ビル4階 TEL 0466-46-5602 FAX 0466-46-5696 e-mail : uno@kanagawa-fa.gr.jp	 一般社団法人 神奈川県サッカー協会 副会長 本 木 幹 雄 (昭和50年卒教大体育・健) (事務所) 〒252-0804 藤沢市湘南台1-6-7小宮ビル4階 TEL 0466-46-5602 FAX 0466-46-5696 e-mail : motoki@kanagawa-fa.gr.jp	 一般社団法人 神奈川県サッカー協会 副会長 坂 本 紀 典 (昭和51年卒教大体育・健) (事務所) 〒252-0804 藤沢市湘南台1-6-7小宮ビル4階 TEL 0466-46-5602 FAX 0466-46-5696 e-mail : motoki@kanagawa-fa.gr.jp

日本に学びたいこと 日本に学んでほしいこと



【日本のことが好き】

ミルナ・トムーム(エジプト)
人文・文化学群 比較文化学類



日本へ留学することは私の2年来の夢でした。なぜなら、日本語や日本の文化、歴史などに興味があったからです。そして日本に来る前は、「日本の文化は私たちの文化とは違って少し不思議なところがあるな」と見ていたこともありましたが、日本に留学し日本人と接するようになってからは、日本の文化は大変面白いと思うようになり、とても好きになりました。

◎ 日本人はとても親切

実は、私は日本へ来る前に、「日本人は周りの人にあまり関心を示しませんよ。周りに何か困ったことのある人や何か問題をかかえている人がいても、日本人は何も反応しませんよ」と聞かされていたのですが、それは全く逆の忠告であったことに気づきました。

ある時、私が外出した折に、どのバスに乗ったらいいかわからなかったので近くにいた日本人の方に尋ねたら親切に教えてくれ、それでも私が理解できないでいたらその方はもっとわかりやすく丁寧に説明してくれました。また、私がスーパーで買いたいものを探していた際には、スーパーで働いている人が「大丈夫ですか。手伝い

ましようか」と言ってくれて、たいへんうれしい思いをしたこともありました。

◎ 日本には相手の気持ちを大切にすることがある

日本人は礼儀正しいことで知られている国民です。それは日本人が他の人と接する態度によくあらわれています。例えば、若者が高齢の方と話す時や、お店の人がお客さんと話す時に敬語が使われます。また、日本人が自分のことを話すときには謙虚に話します。こういう態度を見ると、日本人は本当に礼儀正しい国民であると感じます。

それから、私が日本人の話し方で気づいたことがもう一つあります。それは、日本人は本当の意見や意志を直截に言うことがあまり好きではないということです。

例えば、日本人は誰かに「そのことをどう思いますか」と聞かれたとき、相手と自分の意見が違っていたら、自分の本当の意見を言いません。また、食事に誘われてその誘いを断るときにも「いいえ、行きません」というようにはっきりとした言い方(断り方)はしません。それはおそらく、相手の感情を傷つけないための配慮からなのではないかと思うのです。でも私はそういう日本の文化が大好きですし、日本人を尊敬する理由の一つです。

◎ 日本の教育システムにも感動

日本に来てから、エジプトの教育システムと根本的に異なる日本の教育システムを知り、強い関心を持つようになりました。

エジプトの教育システムでは、学生は教材を暗記するだけで、考える力が必要とされていません。試験の前になると先生から「授業で習ったことをちゃんと覚えるように。試験は教科書に書いてあることから出る」と言われるので、学生は覚えるしかありません。

しかし、このシステムは学生にプレッシャーをかけるだけです。なぜなら、学生は教科書に書いてあることを暗記し、試験でしっかり書けるようにするために大変なストレスにさらされるからです。そして、高校3年生の

筑波大学は、建学の時から「開かれた大学」「世界と共生する大学」をめざして、数多くの留学生を受け入れてきました。そして、世界のグローバル化がますます進展し、社会・文化・経済などあらゆる分野での国際化が求められているいま、筑波大学には世界のさまざまな国からの留学生およそ2,000人が在籍し、日本人の学生や研究者と国籍を超え文化の違いをのりこえて、お互いに切磋琢磨しながら勉学や研究に取り組んでいます。

そこで今回の特集は、筑波大学に学ぶ留学生の皆さんに、「なぜ留学先として日本を選んだのか」「日本に留学してどんな発見や驚きがあったか」「留学経験をこれからどう生かそうと考えているか」などを執筆していただき、学生担当副学長の清水一彦さんに、「グローバル時代の留学の意味」についてまとめていただきました。

ときの試験で高校卒業と大学の入学が決まるシステムになっているので、もし悪い成績をとったら卒業も進学もできなくなりますから、エジプトの学生にとって暗記主義のこの試験は大きなストレスになっているのです。

それに比べて、日本では、高校卒業のための試験はなく、必要な単位がとれていれば卒業できますし、大学も入学試験の結果により、希望する大学に入ることが出来ます。

私はそういう日本の教育の実際を知り、エジプトの教育システムも日本の教育システムのようになったらいいなと思うようになりました。

それから、筑波大学に留学して驚いたのは、学生に希望する勉強や科目を自由に選べるシステムです。

「興味のある科目があつたら、自由に選んでください」「履修登録期限まではたくさん先生の授業に出て、最終的に好きな授業をとってください」と言われて、私はとても感動いたしました。なぜなら、エジプト人の私にとって、好きな科目を自由に選ぶということは初めての経験だったからです。

学生の希望を尊重するこのような日本の教育システムはエジプトでもぜひ導入してほしいと願っています。

【日本に留学して考えたこと】

塚本 沙世(アメリカ・日本)

社会国際学群 国際総合学類



◎場の雰囲気を感じつつ国・日本

私が日本に来て一番悩み苦労したのは「建前と本音」のあるコミュニケーションの取り方です。目上の人だけに限らず友達との会話でも「建前と本音」があつてとても驚きました。その場の雰囲気を崩さないという気遣いは、私にとっては繊細すぎる感覚で、これは日本の国民性なのだろうと思いました。

でも、私はこのようなコミュニケーションの取り方がまだよくわからず、相手の言っていることが建前なのか本音なのかを見極めることができないために毎日のようにストレーナ発言をして、後で反省ばかりしています。アメリカでは日本と違って、物事をはっきり言うことが求められ、また評価もされますので、その場の雰囲気を壊してしまうということはよくあります。しかし、それもアメリカという国の国民性です。

日本に来て、コミュニケーションの取り方だけを見ても、国が変わるとこんなに大きな違いがあり、その国の個性が現われるということを知りました。そして、そういう文化の違いを尊重し生活していくことがとても大切であることを学びました。

◎漫画やアニメは日本の誇れる文化

日本の文化で私が愛してやまないのは、漫画とお笑いの文化です。

アメリカにもコミックと呼ばれるものがありますが、コミックはヒーローをベースとした物語がメインで、日本の漫画とは少し違います。日本の漫画は、恋愛、ファンタジー、ミステリー、アクションなど幅広いカテゴリーが網羅されていて、しかも個性的で面白いものが数多く存在しています。キャラクターも可愛く描かれていて、眺めているだけでもとても面白い。大人から子供まで幅広い年代で好まれている漫画は日本の誇れる素晴らしい文化だと思います。

そして、漫画だけでなくアニメやジブリ作品なども世界に誇れる文化です。ただこれらの作品を見ていて思うのは、日本人の感覚でしか分からないところや翻訳して

しまうことで失われてしまうメッセージがあり、とても残念に思うことです。繊細な部分のメッセージを正しく受けとめるためには、その国の文化を知り、その国の言葉を学ぶ必要があるということを改めて感じています。

◎お笑い芸人もアイドルも不思議な魅力

日本に来てバラエティ番組をよく見るようになり、お笑いの魅力に引き込まれていくようになりました。

日本のテレビにはお笑い専門の番組がたくさんあり、数多くのお笑い芸人が出演していて、気分が沈んでいるときやストレスがたまっているときなど、お笑い番組を視聴することでとてもポジティブな気分になれます。

また、有名なお笑い芸人の芸が日本全国にトレンドとして広がると、それを会話の中に取り入れて使うのも日本ではよく行われています。日本では、お笑いが文化として根付いているように思われます。

それから、最近私に関心を持っているのはアイドルです。最初はAKB48などのアイドルグループがどうしてあんなに人気があるのか不思議でなりませんでした。彼女たちの活動をテレビやネットで見ることがになり、不思議な魅力を感じるようになりました。英語では表すことのできない「可愛い」という感覚がとても似合う日本のアイドルグループは、私がいま一番関心を持っている存在です。

◎筑波大学でもつと成長したい

筑波大学は人と人とのつながりがとても強く、また地域にもよく溶け込んでいて、とても魅力的な大学です。

私はこの筑波大学に留学し、日本の文化に触れることで、アメリカと日本の国籍を持つ自分自身のアイデンティティについてよく考えるようになりました。また、多くの個性的な学生や教授の方々と関わることに、これからの人生のあり方についても深く考えさせられています。

筑波大学は私自身の成長の場です。多くの出会いや発見を積み重ね、視野を広げ、これからの私の人生が意味のあるものになるよう成長していきたいと考えています。

【日本人の活力に学びたい】

カズイ・タスリムウディン・

チョウドリー（バン格拉デッシュ）

理工学群 応用理工学類



◎ 私はなぜ日本留学をめざしたか

母国バン格拉デッシュでは、日本は「技術大国」というイメージがあります。また日本人は勤勉で、平和を愛し、親切的な国民であるという受け止め方もされています。

私は、中学校の教科書に書かれていた「日本は第二次世界大戦後、戦禍で疲弊した国土の再建に努力し、アジアだけでなく世界をリードする国の一つになった」という記事を読み大きな感動を覚えました。

そして、あの戦争の焼け跡から出発し、どうやって世界屈指の技術大国になり経済大国になったのかを学びたいと思い、日本への留学を決意したのです。

◎ 日本に来てから気づいたこと

来日してから五年が経ちました。その間に、私が日本から受けたもつとも強い印象は、「日本人の活力とエネルギー」です。どんな工場に行っても、どんな職場に行っても、またどんな畑に行っても、そこには一生懸命仕事に取り組んでいる人の姿がありました。そして、現在の日本をつくりそれを支えているのは、日本人の勤勉さ

であり努力であるということが良くわかりました。また五年間のさまざまな出会いから感じた日本人の印象は、「礼儀正しい」「誠実」「知的」というものですが、「人の役に立ちたい」と考えている人が多いという印象も受けました。

それは私が来日した頃よく道に迷うことが多かったのですが、通りがかりの人に道を尋ねると、どの人も丁寧に教えてくれ、なかには目的地まで案内してくれる人もいたからです。

それから、私は日本社会について、面白いことに気づきました。それは、日本が社会主義の国よりも社会主義的であるように思えることです。平等という視点で日本社会を見ると、日本はチャンスの平等が理想のレベルに近づいているように思えます。

例えば、日本人はどんな家庭に生まれても、自分の学力だけで希望する学校で学ぶことができます。

また、日本は学歴社会といわれていますが、収入の面で見ると、大学を卒業した人も、高校・中学だけで卒業した人もあまり大きな差がなく、仕事で頑張れば平均的な生活ができる国であるように見えるのです。

◎ 日本で学んだことを母国で生かしたい

私は筑波大学では、電子工学を専攻しています。

母国が工業化し、人々の生活を豊かにしていくためにはエネルギー分野が重要な課題になると考えたからです。

そして、修士課程では太陽電池の研究に取り組み、修士課程修了後は日本のエネルギー企業で高度の技術はもとより会社経営についても勉強し、将来は母国に戻ってエネルギー分野の会社を立ち上げ、母国の発展に貢献したいと考えています。

◎ 日本留学のもう一つの目的

私の日本留学にはもう一つの目的があります。それは、専門の勉強だけでなく、日本の文化や伝統を学ぶことです。

自分の人生のもつとも大切な時間を日本で過ごし、数多くの方々と出会い、日本文化や日本という国の仕組み

を学んでいます。

これからはこの国で学んだ貴重な経験を母国の多くの人たちに伝え、母国と日本がこれからも友好な関係を保っているよう力を尽くしていきたいと考えています。

【日本のことが好きでも変わってほしいこともある】

黄海玉（中国）

人間総合科学研究科 教育基礎学専攻



◎ 日本に来て感心したこと、驚いたこと

私が私費留学生として日本に来てから7年が経ちました。その7年間の留学生活を通して、日本という国を知っていくうちに、感心したこと驚いたことがたくさんありました。

まず、世界で一番といってもいいほどの日本人のマナーの良さです。いくら込み合っている、誰が言い出すわけでもなくいつの間にか自然に列ができています。こういう光景を私は日本に来るまでは見たことがなかったもので、とても驚きましたし、感心しました。

次に感心したのは、社会が安全であるということです。私はアルバイトで深夜12時過ぎて帰宅する日もあるのですが、東京の街はとも明るく、全然怖くはありません。またジッパーや蓋がない鞆を持って満員電車に乗っていても財布を取られることを心配する必要がないほど安全です。私はこんなに安全でマナーの良い国に留学できたことをうれしく思っています。

◎筑波大学での留学生活

私は2010年4月に筑波大学大学院に入学しました。入学試験を受けるために初めて大学のキャンパスを訪れたとき、緑の豊かさとその広さに驚きました。

後から聞いた話では、筑波大学のキャンパスの広さは全国の大学の中でも飛びぬけているようです。

また、私の専攻する教育学の分野では、筑波大学は長い歴史と伝統をもっていて、教育学関係の図書は日本のどの大学よりも充実していると感じています。

そして、筑波大学は、こうしたインフラだけでなく、指導体制にも優れたものがあり、毎週行われる博士後期課程の院生をメインとする研究会には指導教授以外にも何人もの先生が参加してくださるので、高いレベルの研究会になっています。

また筑波大学では、大学院生が研究に専念できるよう、院生のための研究室が用意されていますから、留学生と日本人学生が研究だけでなく異文化理解という面でも、有益な交流ができるようになっていきます。

いま私の研究室には、留学生が3人、日本人学生が3人所属していますが、毎週の研究会の後にはみんなで食事に出かけ、さまざまなことを話し合います。

また、年に1回は旅行にも出かけ、交流を深めています。留学生にとって、こういう食事会や旅行は、学問の研究だけでなく、日本の文化を知り、私たちの知らない日本の暮らしを知る大変良い機会になっています。

このように筑波大学は留学生にとっていい環境が用意されていると思っていますが、一つだけお願いがあります。筑波大学には他の大学と比べても遜色がないくらいの数の留学生が在籍していますが、そのほとんどは大学院の学生で、学群（学部）の学生があまりいません。

文部科学省でもグローバル時代を視野に入れて、「留学生30万人」政策を打ち出しています。筑波大学もぜひ大学院生だけでなく、学群（学部）でも留学生をもっと受け入れてほしいと思っています。そうすることにより、筑波大学はこれまで以上に「世界中から多くの人材が集まる大学」になれるだろうと思うのです。

◎留学生受け入れのための日本社会へのお願い

グローバル社会が進み、日本にはこれから数多くの留学生がやってくるだろうと思います。その時にぜひ直してほしい課題があります。

それは不動産業者の「外国人入居不可」という対応です。私も日本に来て7年の間に3回の引っ越しを経験しましたが、そのたびに「外国人入居不可」の壁にぶつかりました。

最近は家賃保証会社を使えるようになったので、前よりは少し良くなっていますが、大家さんの中には、まだ、保証会社の保証があっても、外国人というだけで断る方もいるようです。

グローバル時代は世界中の人が交流する時代ですから、留学生を「外国人」という目だけで見るのではなく、一人の人間として見てほしいと願っています。

【留学は「本当の自分」を探す旅】

プロ・バティスト(フランス)
人文社会科学研究科 言語専攻



◎他者との関わりの中で生きる私たち

私が筑波大学への留学を考えたのは、「世界をもっと知りたい」「世界の人々のことをもっと知りたい」という思いからでした。

留学は「世界の中の自分」「どこかの国に属する自分」に気づくことのできる貴重な機会です。

さまざまな国籍の人々と接していると、一個人としてよりも何々人として、例えば私の場合であればフランス人として見られているということに気づかれます。それはなぜなのでしょう。その問いの答えは、自分のアイデンティティと他者との関係にあるように思えます。

つまり私たちは他者との関わりをなくして自分一人で生きていくことはできない存在で、いつも自分の属する社会の文化や常識に縛られて行動しています。従って、私たちのアイデンティティも他者との関係から生じる相対的なものですから、普段の暮らしの中では「本当の自分」を全面的に押し出すということはできないので、どうして何々人が先に出てしまうのです。

◎では「本当の自分」とは一体何なのでしょう

筑波大学への留学は、この問いの答えを導き出す大きなきっかけになりました。

私がフランス人だから「こう」あるいは「こうではない」と判断されてしまっているということについては、フランス人である自分を日本の文化やメンタリティーと比較したことによって、強く意識するようになりました。そして、それまで私の中で別々に存在していた「フランス人」と「私」が、実は、強くそして濃く繋がっていることに気づきました。

母国を離れ、世界に進出する人にとって、「世界から見た自分」を知り、「自分は何々人」であるという当事者意識を持つことが重要です。

私は筑波大学に留学してから、そのことを学び、「世界の中のフランスと日本」や「本当の自分」がわかってきたような気がしています。

◎言語学者としての私

私はフランスのボルドー第3大学で、日本語とフランス語を対象とする対照言語学を専攻し、同時にフランス語の教授法についても習い始めたのですが、あまりうまく教えることができず、日本に留学してどのような教育法が必要かを研究したいと考えました。

筑波大学に来てから、私はそれぞれの言語の振る舞いや学習環境の違いなどについての重要な知識を得ることができました。

また、言語教育では文法などを教科書通りに教えるのではなく、経験と実践に即した教育が必要であるということも学びました。

そして、フランス語を教えるには、「フランスの文化をよく知り」「自分のアイデンティティを打ち立てる」ことが必要だということを確信しました。それは、フランス人としてのプライドをしっかりと持っていないと、フランス語を正しく教えることはできないと思うからです。

私は日本での留学生活を通じて、「自分とは何か」を知ることができました。そしてそのことにより、私はいまフランス人としてのプライドを持って、フランス語を教え、フランス文化を世界に向けて発信していけるようになったのではないかと自負しています。

◎世界で起きていることに関心を持つ

「世界を変えたければ、あなた自身が世界に望むような『変化』とならなければならない」——これはマハトマ・ガンジーの言葉です。

世界で起きているいろんなことは私たちに関係のないことではありません。むしろ直結していると言っているでしょう。ですから私たちは一人ひとりが目を見開いて、世界で起きていることをしっかりと認識することが大切なのです。

ガンジーのこの言葉の意味とこの言葉がグローバル社会でますます重要になってきていることがわかってきたのは、筑波大学に留学し「本当の自分」を知ることができたからだと思っています。

【筑波大学の教員になりました】

タスタンベコフ・クアニシ(カザフスタン)

人間総合科学研究科 教育基礎学専攻 修士

現在 筑波大学助教



◎筑波大学で学位をめざす

私は2000年に文部科学省の「日本語・日本文化研究生」という1年間の国費留学生プログラムで日本に初めて留学してきました。

そして筑波大学の日本語・日本文化学類に他の国からの留学生14名と一緒に所属して、日本語と日本文化を学びました。また、大学での授業だけでなく、山梨県の山奥の村で芋ほり・餅つき・そば打ちなどを経験したり、東京の下町で日本舞踊を鑑賞したり、京都と奈良のお寺を見学したり、日本人の家でお正月を過ごしたり、日本の文化にフルに触れることができました。

日本人や外国人の友達がたくさんできて、あの1年間の思い出は楽しいことばかりで、いまでも脳裏に鮮明に焼きついていています。

こうして1年間の留学は終わりましたが、私は「また日本に留学して勉強を続けたい」という気持ちが強くなり、3年後の2004年に大学院をめざして筑波大学に

戻ってきました。そこから始まった2度目の留学はおよそ8年間という長い期間になりましたが、2012年に博士後期課程を修了し、博士号を取得することができました。

大学院時代は前回の留学とは違って日本で学位をとることが目的でしたから、勉強と研究に集中しなければならぬ日々が続き、募る疲労、ストレス、将来への不安があり、日本社会のしきたりに対する戸惑いを感じることもありました。でも、それを乗り越えることができたのは、日本人の友達、ホストファミリー、先生方に支えていただいたおかげで、私の日本を愛する心は以前に増して育っていきました。

学位を取得した後は、1年ほど母国に戻って教育科学省で仕事をしていましたが、日本で仕事ができるというチャンスがあり、いまは筑波大学の教員として働いています。

◎私の日本を愛する心

私の日本を愛する心は、子どものころに読んだ「竜安寺石庭の15個目の石」から芽生えてきました。この本は1980年代に駐日ソビエトジャーナリスト(当時)によって書かれ、政治的色合い(社会主義国家から見た資本主義国家)を除けば、四季の美しさ、和食の彩、先端技術と古い伝統の共存、日本人の勤勉さや忠実さ、年功序列と終身雇用制度などについて細かく描かれていて、日本に対するイメージを豊かに膨らませてくれました。

そして私が初めて見た日本は、きれいな田んぼ、家の瓦の屋根、雪が舞うように散っていく桜、炎のような真っ赤な紅葉、人込み、そびえる高層ビル、ネオンサイン、定刻発車の満員電車、きもの姿の女性たち、都心にお寺や神社のある国であったのと同時に、人間の身の回りのあらゆることを便利にし、快適な生活を送れるようにするための技術が絶え間なく開発・改善され続ける21世紀どころか22世紀の世界でした。

そして、何よりも心を打たれたのは、日本人の真心でした。成田に着いた瞬間から、私は日本人の礼儀正しき、謙虚さ、相手への気遣い、几帳面さに感動しましたが、

その後の留学中のさまざまな体験から、「日本の素晴らしいところは日本人の心にある」と考えるようになりました。そういう日本人の例をいくつか挙げるとすると、一つ目は、友達が電車で財布を落としてしまつて財布だから見つかるはずがないとあきらめていた時に、警察から「財布が見つかった」という電話がかかつてきて、しかも1円もなくなつていなかったということを知ったことです。この時、私は日本人の誠実さと順法精神に大きな感動を覚えました。

二つ目は、日本の公立の学校では児童生徒が学校の掃除をするということを知ったことです。学校の廊下やトイレを掃除して育った子供たちは、大人になつても公の場所を汚したりしないし、そこを掃除する人を尊敬するでしょう。これは、日本を訪れた外国人の誰もが驚くように、日本の公衆の場所の清潔さによつても証明できるだろうと思います。私は日本の教育の奥深さに息をのみました。

そして、こういう経験もあつて、私の日本を愛する心はますます大きくなつていったのです。

グローバル時代の日本に願うこと

先に紹介した本では、日本社会は竜安寺の石庭の15個目の石に例えられています。それは、竜安寺の15個目の石が見えないと同じように、外国人には理解できない何かが常に隠れているという例えです。「空気を読む」「暗黙の了解」「以心伝心」といった言葉があるように、日本人は相手にその場の雰囲気などで物事を理解してもらうことを求めます。

これこそ外国人にとつては「見えない15個目の石」のようなものだと思います。

グローバル化の進展とともに、日本もこれから外国人の存在が拡大していきます。そこでは、相手に物事をはつきり伝えることが両者（日本人と外国人）にとって重要な課題になります。

何が求められているのか、何が期待されているのかを明確に言われれば、外国人もその期待に応えようと努力しますし、日本社会にスムーズに溶け込んでいけると思

うのです。

日本人と外国人がお互いに率直になれば、異なる文化・言語への寛容さや理解が生まれ、調和的な共生ができるようになりますから、グローバル時代にあつても日本社会はますます発展していけるのではないのでしょうか。

グローバル化の効用

筑波大学副学長・理事 清水 一彦



「日本に学びたいこと 日本に学んでほしいこと」をテーマに、6人の留学経験者に、『留学生から見た世界の日本の日本』を語ってもらいました。そしてそれぞれの出身国・民族・文化など、バックグラウンドが違つていても、いくつかの共通点も見られることがわかりました。

客観的なものの見方を学ぶ

留学生の多くは、日本で過ごした生活や経験は何らかの形で自分にとってプラスになつていいると受け止めています。日本の経験がもたらしたプラスの効果の内容は人によつてさまざまですが、共通している点としては「客観的にものを見ることができるようになった」ということが挙げられます。それは「ものをありのままに見ることができるようになった」ということでもあります。例えば、温度計が気温15℃を指していたら、誰が温度計を見ても気温は15℃だと言うでしょう。それは気温をありのままに見ているからです。ところが、人は夏の15℃を「寒い」と言ったり、冬の15℃を「暖かい」と言ったりすることがあります。両方とも同じ15℃なのですが、それに回りの環境などを踏まえて意味をつけて見ているのです。これが「主観的」な見方であり、「客観的」と対になる見方です。

自分自身がものを客観的に見ることができるようになったということは、「母国や日本をありのままに見ることができるようになった」ことを意味し、多くの人がそれをプラスの効果として挙げていました。それは、留学生の皆さんが、日本人が外国を見るのと同じような視点で母国を見ることができるようになったということだと思います。

では、物事を客観的に見ることができるようになつたらどうなるのでしょうか。

これまで母国で生活して「当たり前」「常識」と考えられていることについて、より深く考えることができるようになるだろうと思います。

また、母国から遠く離れた日本で、新たな生活や文化・歴史といったものを体験すると、日本からは母国がどのような見えるのかもわかつてくるはずですが、物事には常に「光と影」「表と裏」などの二面性があります。どちらか一方からしか見ることができないと、本質を見誤ることになります。

自分の中に「母国を主観的に見る視点（母国の視点）」

と「母国を客観的に見る視点(外国人の視点)」の二つがあることで、物事を多面的に見られるようになります。母国を客観的に見ることで、情報に惑わされることもなくなり、母国と他の国の違いを正しく理解でき、自分自身の思考の幅が広がるという効果にもつながっていくのです。

●日本の常識は世界の非常識

物事を多面的に見るということは、教育の世界においても必要なことです。日本の教育には、「日本の常識は世界の非常識」といわれるものがいくつかあって、私たちが当たり前と考えていることが世界という視点から見ただけでは決して当たり前ではないことがよくあるのです。例えば、体罰についてです。日本では明治以来、体罰は法的には全面禁止で、いまも学校教育法第11条において禁止されています。しかし、諸外国では体罰を容認する国が多く、アメリカでも各州において認められています。

その場合、無条件で認めているわけではなく、国によって違いはありますが、対象年齢や体罰の回数、場所、道具、体罰のできる教員などに一定の制限を設けて、ルール化しているのです。

また、学校掃除についても、日本では生徒が教員と一緒にに行っていますが、これは仏教の修行の形が学校教育にも取り入れられたものです。しかし、諸外国では、神聖なる生徒に掃除をさせてはいけないとか、専門のプロがした方が早くてきれいになるといった思想の下で、必ずしも生徒が掃除をする姿にはなっていない。

宗教についても、日本と外国ではそのとらえ方が異なり、学校においては異なった教育場面が見られます。

このように、日本では当たり前のことが外国では違っている教育状況は多く、それゆえに日本を諸外国との比較において客観的にとらえることが求められるのです。

●「百聞は一見に如かず」

「百聞は一見に如かず」とは、「人の話を何度も耳で聞くよりも、現実に自分の目で見て確かめるほうがはるかによくわかる」というお馴染みのことわざですが、現在は人の話を直接聞くことのほかに、テレビ・新聞といったマスメディアをはじめ、本やインターネットなどにより、間接的な情報を楽に手に入れることができるようになっていきます。

これは国内に限らず、海外の情報についても同様で、例えば日本にいながら海外ニュースを見ることができ、また、海外の新聞も購読できます。

本屋に頼めば洋書も買えるし、インターネットで世界中のサイトを閲覧することができるとなれば、一見すると海外へ行く必要はないようにも思えます。

しかし、逆に考えれば、このように間接的な情報が山のように入手できるようになったからこそ、「直接体験すること」にこれまで以上の価値がある時代になったともいえます。

海外へ行った人の話を聞くと「日本にいるだけでは絶対にわからなかったことがたくさんある。テレビや新聞、本やインターネットなどで間接的に手に入る情報量をとすると、実際に海外へ行って現地で体験して得た情報量は100にも200にもなる」と多くの人が口を揃えて言います。

私自身も海外に行ったことがあるのでよくわかるのですが、日本にいてわかることと現地へ行ってみるとは全く違います。何が一番違うかというと、「空気」「雰囲気」です。こればかりは、新聞の紙面やテレビやインターネットの画面からは感じることが難しい。アーティストのライブやスポーツの試合を生で観たことのある人なら実感としてわかると思いますが、テレビで観るのと実際の会場で観るのでは全然違うのです。

知識として知っていることと、実際に体験して知ることとの間には、大きな隔たりがあるといっているように。

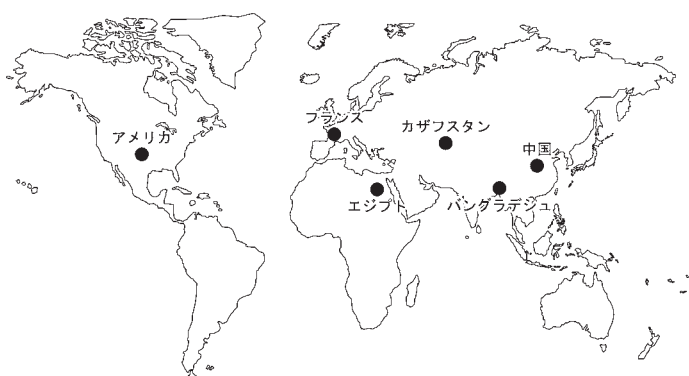
これは、はじめて自転車に乗るときにうまく乗れずに、練習を繰り返したことがある人ならわかるはずです。

「自転車に乗るには、サドルにまたがり、ハンドルを握り、ペダルをこぐ」——文字にすればこれだけのことですが、このことを知識として知っていたからと言って、実際に自転車に乗れるとは限りません。しかし、一度乗れるようになれば、それ以降はずっと乗れるようになります。実際に体験して知ったことは、二度と忘れないということの意味します。海外へ行き、現地の生活を経験することもこれと同じです。一度体験することで、実感としてその国のことがわかるようになるのです。

本学で学んでいる留学生は、まさしく「百聞は一見に如かず」を実感し、それぞれの生活や体験を通して、生きた知識や技能を獲得していることになります。このように、本当の意味で血となり肉となる知識や技能は、体験から得るのが一番なのです。

今回の特集に登場してもらった留学生たちの体験談や意見・主張は、本学で学ぶ学生はもとより、本学の志向するグローバル人材の育成にとっても大いに参考になるものばかりです。ご協力いただいた留学生の皆さんや関係の皆さんに厚くお礼申し上げます。

私たちはこの国から留学してきました





「東京都茗溪会」が発足しました

去る11月24日(日)、茗溪会館において100名を超える同窓が集い、念願の「東京都茗溪会(以下、都茗溪会)」が発足しました。その第1回総会(都茗溪会発足会)や記念講演、交流会の様子についてご報告いたします。



司会の池田達郎氏

を代表する番組を担当しているだけに、言葉も爽やかで会全体も何処か落ち着いた雰囲気の中でスムーズに進行できた。

次に、司会の池田達郎氏から自己紹介があった。今回の総会・交流会の司会は、現在早朝のNHKニュース「おはよう日本」のアナウンサーとして活躍している池田達郎氏(平01筑一人文03筑修教)にお願いした。池田氏は、現在、日本の朝

のことであろう。さらに、スポーツ界における学生の活躍や、「ロボットスーツHAL」で世界的に有名な山海教授など教官の世界レベルでの活躍ぶりが紹介された。



挨拶する江田理事長(左)、阿江副学長(右)

議案審議

第1回総会議事の議長には、世話人代表の高橋基之氏が承認されて議長席に着いた。

議案は、都茗溪会の「会則」並びに「役員」の二案であった。第一号議案である「会則」の要諦は、①会の名称「東京都茗溪会」、②目的「会員の連携、研修、研鑽、親睦、学生支援」、③会員資格「東京都内に居住する者か勤務地のある者」で「都内のいずれかの支部の会員」となり本部会費を納めている者、④定期総会「年1回、出席者の過半数による議決」、議案内容は

「役員選任・活動計画・予算決算・その他」、⑤役員構成は「会長(1名)、副会長(若干名)、会計(1名)、監査役(2名)、事務局長(1名)、事務局員(若干名)」とし、「顧問、相談役」が置ける、⑥役員任期は「2年、再任可」、⑦財務は「茗溪会からの支部活動費・寄付金・その他で支弁」、⑧会計年度は「4月1日から3月31日まで」等である。

補足として、都茗溪会では特段の会費は徴収せず、茗溪会本部会費の一部が今後支部活動費として降りてくるようになることから、それを活動費として充当したいということであった。

さらに、質疑では「東京都茗溪会」ではなく「東京茗溪会」の方が広く参加しやすくてよいとの意見、従前の都内各支部は速やかに解体して「新茗溪会」に一本化すべきとの積極的な意見等が出された。それに対し、茗溪会理事である福岡一雄世話人から、以下の説明がなされた。

① 支部組織は現在のところ茗溪会本部の規約によっていて、この総会だけで東京の支部組織を解体して一本化することはできない(現在規約上は28の地域支部と

第一部 総会(発足会)

柳久美子世話人(文教大学付属幼稚園長)の開会の挨拶の後、高橋基之世話人代表(都立目黒高等学校長)から「都茗溪会」発足までの経緯についての報告がなされた(詳細は挨拶記事参照)。

続いて来賓祝辞として江田昌佑理事長から、東京都内

地域・業界・世代の枠を超えて

東京都茗溪会 会長
高橋 基之



平成25年11月24日(日)午後2時より、「東京都茗溪会」の発足と第1回総会を茗溪会館にて、池田達郎氏の司会のもと、氏家幹人氏の記念講演会、その後の交流会を含めて、100名を超える参加者を集めて開くことができました。筑波大学の開学40周年という記念すべきこの年に、会を発足させることができ、世話人一同、参加者のみなさま、そして茗溪会事務局をはじめ、この会の発足に関わっ

た全ての関係者のみなさまに、心から感謝する次第です。

ほぼ1年にわたる準備期間の中で、東京都における28の支部組織の今後のあり方にも触れて議論を行い、この「東京都茗溪会」の名称、会則、そしてこの第1回総会のあり方を考えてまいりました。当日の議事の中での質問にもありましたが、名称については「東京茗溪会」でよいのではないかと意見も、世話人の間でも議論いたしました。しかし、現在の茗溪会の支部組織については、組織委員会での今後の検討をふまえ、今回はあくまで東京都にある支部を全てくくり、東京都を一つの支部にまとめてというところまでは至らずの発足となりました。

今後、東京都を神奈川県「神奈川茗溪会」のように、一つの組織として運営していくことも検討して参りたいと思いますが、新宿や葛飾の支部が活動している実態もあり、それらの支部活動の活性化と東京の活動の在り方も調整していかななくてはなりません。

組織の形も大事なのですが、これまでは東京都全体としての活動は行っていなかった実態から、まず一歩踏み出して、東京都全体の会を発足させて、それにより人が集まり、知恵を集め、東京都の活動を活性化させていきたいと考えました。筑波大学を卒業しても、茗溪会に入会しないという同窓が多くいること、また、各支部で実際に十分に会員を把握していないことなどを踏まえ、集まった会員のネットワークも活かしながら、会員を把握し、より良い会にしていきたいと考えます。そして、茗溪会の中にあって、多くの会員数を持つこの東京の活動を、是非とも、全体として活性化してまいりたいと思います。

そこで、支部組織が残っている以上、まことに恐れ入りますが、改めて支部の所属を、みなさまには居住の場所か勤務している場所かで確認していただきながら、実質として東京都会員の把握を行い、その上で地域・業界・世代の枠を超えてより幅広く交流し、相互に学習し合うなどの機会をつくって、絆を深めていただきたいと考えております。当日のアンケートにもご記入いただきましたが、今後もこれからの活動へのアイデアをいただければ幸いに存じます。ぜひ、これからも、みなさまには積極的な会へのご参加とご支援をお願いいたします。

将来、日本社会のみならず世界で活躍していく筑波大学生も、さまざまな社会の情報をできるだけ掴みたいと願っているはずです。一方で、筑波大学生は「つくば」という地でのんびりと過ごしている実態もあるとの声も聞きます。これからは筑波大学生に対するさまざまな支援も必要です。

私事で恐縮ですが、私の父も茗溪会にはたいへんお世話になりました。私も皆さまのお力をいただきながら、微力ではありますが「東京都茗溪会」の運営の活性化に努力し、みなさまとともに筑波大学生を支援してまいりたいと思います。

都庁等の3つの職域支部がある。

② 東京の茗溪会の当面の名称として「都」を使用するが、一本化になれば神奈川県茗溪会と同じ全県支部組織として都県名をとって「東京茗溪会」としたい(神奈川県は全県で1支部であるので都県名をとっても不自然でない)。今は改革途上の名称であることをご理解いただきたい。

以上の説明がなされ、多数の拍手をもって承認された。

新役員決定

第二号議案「役員」では、左記の初代役員が承認された。

会長	高橋 基之(都立目黒高校校長)	53 筑一自
副会長	柳 久美子(文教大付属幼稚園長)	50 教大体
〃	真 哲博(関学出版取締役)	57 筑二人間
〃	渡 悟(東京聖栄大学教授)	62 筑博農
会計	浅井 一郎(㈱T&O企画代表取締役)	55 筑一人文
監査役	飯島 睦子(大田区立安方中学校長)	56 筑修教
事務局長	徳田 安伸(都立園芸高校長)	55 筑二農
事務局	塩津 真(㈱キャリアアンカー社長)	62 筑修経
〃	重政文三郎(茗溪会事務局)	42 教大日
相談役	高野 力(茗溪会理事・組織委員長)	48 教大木工
〃	福岡 一雄(茗溪会理事)	32 教大政法

第二部 記念講演

さらに、報告事項は、来年度の活動予定として、本日の出席者の要望をアンケートにて調査し、結果をもってお知らせする旨の説明が行われ、議事は終了した。

記念講演として、歴史学者である氏家幹人先生(52歳 大・筑波院修了)をお迎えして「東京から江戸へ」歴史を編む人、ひととく人」と題して、江戸時代の私的歴史書を通して武士や庶民の生き生きとした暮らしが紹介された。古典解説能力を存分に活して、まさに歴史を裏面からひもとかれた講演であった。(講演内容は次ページ)

『東京から江戸へ 歴史を編む人・ひもとく人』

氏家 幹人氏 記念講演 要旨

わたくしは茗溪の学舎を単立ってから、現在も勤務している国立公文書館に勤めて4年程たった頃に『内閣制度百年史』の編纂執筆に携わりました。レジュメの資料は六十年安保の頃の岸政権のくだりですが、下書きの原稿を関係各省庁の担当者へ回覧、その修正やチェックが入ったものをさらに取りまとめるという作業を繰り返して作成したものです。安保闘争について書かれた民間の出版物や新聞には、国会突入の騒動の中で女子学生の命が失われたこと、すなわち樺美智子さんの事件がもれなく記されていましたので、内閣の正史とはいえず、この事件を無視するのは、国民大多数の記憶とあまりに乖離していると思います、事件に言及し、レジュメのような一文を加えた次第です。ところがこの百年史が公刊されたあとで、いくつかのメディアから政権側の刊行物にこの事件が記載されたことの意外さを指摘されました。内閣の正史によくぞこの事件を書き添えたという、ささやかな喝采の論調だったと記憶しております。

江戸幕府の 公的記録

幕府の公的記録である『徳川実紀』にも当然ありまして、お示しした資料は八代將軍吉宗の美談



として世に喧伝されてきた美女追放の大奥改革の件です。みえうるわしき者をリストアップせよとの下命により、その美女たちを解雇して結婚を奨励し、さなき容貌の者のみを大奥に残したという

記述なのですが、実態は先学の三田村鳶魚が見事に考証したとおり真逆だったというのが、今では定説です。

次の資料は、十一代將軍家齊が側近の小姓たちを縁側から突き転ばすのを愉しんでいたというなんでもない悪戯のことを、実は彼らの将来の立身出世に資すべく行った教育的行為だったとのこじつけで正当化顕彰したくだりです。些細な箇所ですが、史実はゆがめられています。

**個人史の中
の史実** 一方で、個人がまとめた著述のなかには、詳細かつ的確に事実を記録し実態を批判したものがあります。

例えば松浦静山の『甲子夜話』、江戸末期の旗本・宮崎成身の『視聴草』や天保期の旗本夫人・井関隆子の『日記』などです。私がとりわけ面白いと思うのは、井関隆子の『日記』ですと、大奥での出産・乳児保育に関する件です。將軍家や大名家では多数の息女が生まれ過ぎるため、非人間的な、スキンシップを欠いた育児方法をとっていたようです。それがようやく生母がみずからだき抱えて自分の乳を与えられるようになったことを、隆子が喜び記しています。

次は小野直方の長年にわたる克明な記録『官府御沙汰略記』。タイトルから見ると政権の刊行物・揭示物などの記録集成かとも見えますが、それだけではなく、ごく普通の武士家族での日常の記録が実に興味深く多数記録されています。例えば、50歳を超えた隠居の自分自身が奉公人に産ませた女兒を、正妻ともども手厚く扱い、赤ちゃんと亡くしたばかりの町人へ養子に出した顛末も包み隠さず記録されています。また親戚間での食器や什器の貸借、漬物のための大根干しに至るまで。あわせて当時の世相や事件についても、正史に漏れた細部が記されています。歴史学者としてはこうした記録は貴重で、正史を補完して、歴史の実像を垣間見ることができるといえます。

もののふの 意地と作法

江戸初期の三代將軍家光は父親の二代將軍秀忠から冷遇されてきた方ですが、たまたま水戸徳川の二代目候補だった頼重も妾腹ということで父から抹殺されかけたところを家臣に助けられ、それを聞いた家光が手元に呼び

寄せ、一緒に風呂に入ったりして遊びながら、互の境遇を語り合う機会がありました。「お前は水戸殿(光圀)が羨ましいか？」と問われた頼重が「いいえ、水戸殿はこうして上様と一緒に風呂には入れないので私の方から恵まれております」と答えたところ、「そうか、それならいずれば水戸並みの家老をつけてやろう」との言葉があり「本当ですか？」と喜ぶ頼重。二人は「ゆびきりかまきり」と言いながら、誓いの指切りをしたという逸事が記録されています。

次もお風呂の話で、高松藩主となった頼重が側小姓の子供に自分の下がり湯を許したところ、有頂天になったその子供が同輩たちの前で素っ裸になり風呂に走った。それを見た先輩方が憤って、「あんな馬鹿はお家のためにならぬ、煮殺してしまえ」と風呂に閉じ込めどんどん焚きつけとうとう殺したらしい。それを後で聴いた頼重がその先輩たち3名に切腹を申し付けたという壮絶なお話で、しかもその3名は「もとより切腹覚悟での所業だった」と言って自死したと記載されています。つまり、17世紀半ばの武士の世界には、このような正史には載らぬ「もののふ」の意地やら作法があったわけです。

正史に遺ら ない記述

次は、やはり頼重がたまたま城内を散歩でぶつかりそうになり、慌てて退き失礼を詫言した時、「うろたえたのか」となげなく声をかけたところ、即日その家臣は家へ戻って妻を離縁し職を辞したというお話です。これも当時の武士の心だったのでしょう。

最後に聊か驚くべきことですが、解体新書が公刊される半世紀も前に、すでに高松藩では、罪人の処刑を藩主自らが行いその死骸を腑分けしていたらしいのです。

これはだいたいグロテスクなお話ですが、その腑分けを行った小者に、二代藩主の頼常が「お前、それを食ってみろ」と命じたところ、「御前様からお先に」と臓物を差し出し、頼常が「バカめ」と笑い飛ばしたという記事もあります。こういった正史に遺らぬ様々な記述が個人の編纂した稗史には溢れており、それを一つひとつ紐解くことこそ編まれた歴史を読み直す醍醐味だと思います。

(文責 世話人・浅井一郎)

第三部 交流会

交流会は、非常に賑やかに進行了。

まず、茗溪会組織委員長である高野力理事より、都茗溪会の発足にいたる準備委員会の苦勞話が紹介され、続いて都茗溪会新会長となった高橋基之氏から都茗溪会発足の意義、役割、そしてご自身の親子二代にわたる茗溪との関わりにも触れながら、挨拶があった。

その後、乾杯の予定であったが、東京オリンピック銅メダリストで前参議院議員の小野清子先生（現【公財】笹川スポーツ財団理事長）も参加されていたことから、急遽お願いして壇上挨拶を頂くことができ2020年の東京オリンピックを祈念して盛り上がる一幕となった。

そして、江田理事長による都茗溪会への期待とともに、満身からあふれる笑顔の乾杯のご発声を合図として祝宴の開催となった。また、その際の乾杯酒「筑波大学の酒・桐の華」は、生命環境科学研究科・内山裕夫教授の研究室において実際の「桐の花」から分離した清酒酵母を使って醸造した純米吟醸酒で、辛口と香味とうま味にバランスのとれた日本酒であった。宴会が始まると、多芸なる会員諸氏からの出し物が紹



介された。まず、岡本文男氏（35教大農化）によるサイエンスショーが始まった。（トピックス参照）

続いては、久保隆夫氏（44教大木工）により箱根マラソンのエピソードが紹介された。箱根駅伝の1920年（大正9）第1回優勝校が本学（東京高等師範）であることは紛れもない事実であり、ストックホルムマラソン代表選手である金栗四三（東京高師）は箱根駅伝創始者の一人である。以来、本学は62回の出場を果たし国立大学としては最多出場校であるが、1994年以来約20年出場を逃している。今年の予選会では14位と力を伸ばしてきているので、今後も茗溪会をあげて応援していこうと、当時の応援幟（のぼり）を展示されていたスピーチであった。

続いて、今回の参加者の内で最年長者が紹介された。恩田和也氏（28教大教）と亀井浩明氏（28教大教）のお二人である。お二人は同級生であるが、恩田氏は民間企業（コカコーラ）へ、亀井氏は教育界に進まれた盟友で極めてお元氣なご挨拶であった。さらに亀井氏は帝京大学名誉教授で日本連合教育会会長であり、数多くの教育書の著書があり、教員であれば必ず数冊は持っている。

次は、最年少の紹介であった。瀧太一郎氏（19筑一人文）は同じ会社にいる世話人（真当氏）からの誘いで参加されたが、並み居る先輩諸氏に恐縮しながらも、力強い挨拶であった。筑波を卒業してまだ6年目とは聞いたが、さすが企業でもまわっているだけのことはあってしっかりしていた。

さらに、ご夫婦での参加者、我妻慎介氏とみづきさん（共に16筑一人文）ご夫婦が紹介された。お二人は同級生

トピックス

岡本文男先生によるサイエンスショー

第三部交流会において、乾杯後しばらく間をおいて名乗り出ていただいたのは、昭和35年教育大農学部農芸化学卒の岡本文先生でした。先生は長らく荒川区と文京区で中学校理科教員をお勤めになり、さいたま市北区本郷町にお住まいで、サイエンス教室で体験学習してもらうの喜びをされている方です。



はじめにビンの水がさかさにしてもこぼれない実演で参加者の気を集め、「磁石遊び」「音伝導」「割りばし折り」「空気大砲」と熟練の技を披露していただきました。

で筑波大学の人文学類がご縁でご結婚されたということ、一緒に登壇されて仲睦まじい限りであった。

楽しい時間というのは矢のように過ぎていくもので、終盤に近づいてきたことから、締めめの行事となった。田中正造茗溪会事務局長と清水進一神奈川茗溪会会長のお二人からは、本部並びに神奈川茗溪会の近況についてのご報告があった。

続いて、筑波大学学生歌「常陸野の」が合唱された。この歌は、何と今回の世話人の一人である飯島睦子さん（大田区立安方中学校校長）が学生時代に自慢のフルートで作曲して応募されたものが選ばれて制定されたものであり、今となっては歴史秘話になっている。これまで筑波大学の入学式等において長年歌い続けられてきたが、最近大学で新しい歌を作ったために式典では歌われなくなってしまったということで残念な話である。

そして、締めはお決まりの宣揚歌「桐の葉」を大合唱した。渡邊悟世話人（東京聖栄大学教授）の口上により始まり、参加者全員で大きな輪を作って肩を組み、アイソ・ツバイ・デュライで左に右に肩を揺らし、老若男女、百名が心を一つにして歌うこの歌「桐の葉」は、茗溪の一員として生きてきたことに至福の時を感じるひと時であった。（文責 世話人・事務局長 徳田安伸）

茗溪会の公開講座から

公開講座

「この秋、楽しむ宿根サルビア」

講師 水戸市植物公園長 西川 綾子
(茗溪会理事)

10月12日(土) 茗溪会館にて

◆サルビアの概要

みなさんはサルビアという植物はご存じでしょうか？夏に咲く赤い花、花に甘い蜜がある、幼い頃に花の蜜を吸った思い出があるなどのイメージがある草花ですが、実はオーストラリアを除き、世界に900種類が分布している大変種類が多いシソ科アキギリ属の植物です。

ラテン語の *salvia* 意味は健康、救うがサルビアの語源であることから伺えるように薬用になる種類があり、歴史的に有名な種類が、サルビア オフィキナリスです。英名のセージと言った方がわかりやすいかもしれません。また江戸時代に発行された「本草図譜」にも、中国原産のS・ミルチオリザ(タンジン)が薬草として紹介されています。現代ではメキシコ現住のインディアンが占いの儀式に葉を使うため「占い師のセージ」と言われる

S・デイビィノルムが強い幻覚作用があるため薬事法の指定植物となり、取り扱い注意のサルビアとなりました。

様々な種類のサルビアがありますが、観賞価値が高いメキシコ、ブラジル、ペルーのほか、ヨーロッパ、アフリカ原産の種類と特性などを紹介しましたが、図鑑を見ているような話になるので、参加者はよっぽど花が好きなら方じゃないと眠かったかもしれません。



◆短日性のサルビア

さて、サルビアの中には日が短くなった秋に開花するタイプがあります。私の職場では8月半ばから夕方5時になると遮光ネットを被せて暗くさせ、翌朝8時にネットをはずす短日処理を行って、自然開花よりも早く花を咲かせています。

開花時期が早くなるだけではなく、脇芽の発達も促せて一度に花が咲くので、この技術は展示会に適しています。10月上旬から花を楽しめる短日性のサルビアにはレウカンサ、エレガンス、マドレンシスなどのサルビアがあります。

一方、10月に満開にさせるため開花を遅らせている種類もあります。コバルトセージの英名があるレプタンスです。自然開花では8月下旬から咲いてくるので、花芽が見えると先を摘み、また花が咲きそうになると摘む、これを3回ほど繰り返せば、摘心作業を3回行ったことになり花数も増えて満開時には花いっぱいになります。

◆サルビア栽培のポイント

年間を通じてサルビアの栽培管理のポイントですが、日当たりの良い場所に置き、根詰まりさせないで、生育時期は肥料をきらないことがポイントです。

春は宿根性の植替え時期で、根づまりした株を片手で持てるくらいの大きさに分け、新しい用土で植え直します。微塵を抜いた赤玉土(小)・腐葉土・堆肥16:2:2などの用土は排水が良く使いやすいです。新芽が発生してきたら、油かすや骨粉などの有機質肥料を施肥肥培管理に努めます。5~6月は伸びた枝を8cmくらいに切って、挿し芽をします。切り口を鋭利なナイフで切り、雑菌が入って挿し穂が腐らないよう、清潔な用土に挿すことです。温度が20℃あれば2週間ほどで発根します。

根の長さや量に応じて鉢上げする鉢の大きさや、1本植えにするか3株まとめて植えるかを決めます。根が出たからといって、すぐに大きな鉢に植えると用土が多い分、水分量が多くて根の伸び方が悪くなります。用土が多い時は3本を三角形に配置させて植え、鉢いっぱい根が張ってから、大きな鉢に植え替えます。

晩秋には冬の準備を始めます。ブラジルやペルー原産の種類は寒さに弱く、温室などの室内で冬越しさせます。メキシコ原産の多くは、根を凍らせないように工夫すればその土地に慣れ、屋外での越冬が可能になります。11月に落ち葉を株元に厚さ30cmほど厚めに敷いて、霜よけをすることです。マドレンシスの芽が吹いてくるのは5月下旬くらいなので枯れてしまったと早とちりせず、6月の新芽が吹いてくるのを待ちましょう。

◆日本のサルビア

ところで意外に思うかもしれませんが日本にもサルビアが自生しています。学名が *Salpinx japonica* という日本のサルビアの代表といえるのがキバナアキギリです。茨城県にも自生しています。一方、紫や桃色などの花が咲くアキギリは茨城県には自生せず北陸や岐阜、近畿地方に自生します。岐阜や福井近辺では両種の間種が確認でき、観賞価値が高い美しい花がみられます。自生地は木漏れ日のやさしい日差しで近くでは水がわき出て、湿った風が通る場所ですから、少々日当たりが悪い場所でも機嫌良く花が咲いてくれます。これからのガーデンニング素材として注目したい日本の気候にあったサルビアです。最後に水戸から持っていった珍しいサルビアの苗を、直接みなさんに見て頂きました。入手を希望する声が高く実費でお分けしましたら、大変喜ばれました。茗荷谷近辺でガーデンショップは見あたりませんから、生きた教材を準備することは、都内では特に大切なことに思える講座でした。



公開講座 藤原教授の英語のはなし 第8弾

「諺(ことわざ)から 探る英語圏の文化」

講師：藤原 保明
(筑波大学名誉教授)

11月26日(土)
筑波研修センターにて

諺は数が多く、対象も多様であることから、今回は動物をテーマとする諺を取り上げ、日本人とイギリス人の動物観や日英の文化の比較などを試みた。

1 犬の諺

「犬の遠吠え」や「犬は骨で叩けば吠えない」など、犬の習性に対する日本人の厳しい世評が現れている諺は多い。一方、「犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ」のように犬の良好な側面を表す諺は4例のみであり、犬も条件によっては多少評価できることを表す「犬にも用あり」のような諺は4例ある。

英語の dog の派生語や複合語では、犬を見下す例がほとんどであり、犬を高く評価しているのは doglike「忠実な」の1例だけである。イギリス人は動物保護に熱心であるが、犬を高く評価している英語の諺は1つもなく、むしろ、Dogs that put up many hares kill none. のように、好ましくないことを表現したものの方が多い。しつけなどによって良くも悪くもなるとみなされている Dogs bark as they are bred. のような諺も多い。

このように、犬に好意的な諺は日英両言語とも少ない。

2 猿の諺

猿は人間に似ているが、能力や資質が劣ることから、嘲りや軽蔑の対象となっている表現は多く、また、「猿が髭を揉む」、「猿にカミソリ」、「猿の空風(そらしらみ)」のように猿の人真似を揶揄した諺も多い。一方、猿の能力や資質の高さを表す「猿の梢を渡る如し」のような諺がいくつか存在することは興味深い。

英語の猿は ape(尾のない大型の類人猿)と monkey(小型の尾のある猿)に分けられる。ape の慣用句は若干あるが、ape をテーマにした英語の諺は、ラテン語の翻訳2例と、The higher the ape goes, the more he shows his tail. の1例とも、猿に批判的である。

一方、monkey を用いた句や複合語の約半分は悪い意味を含まないが、残りの約半分では好ましくない意味で用いられている。monkey をテーマにした諺が皆無というのは注目に値する。

猿は人真似を理由に日本人から軽蔑されているが、評価に値する身体能力などは諺でも好評である。一方、英語の猿にまつわる語句は多くなく、また猿をテーマとした諺はごく少数である。

3 猫の諺

猫で始まる「猫足、猫板、猫跨ぎ」などの表現では、猫の評価に言及されていないが、「猫かぶり、猫背、猫の額」などには猫の好ましくない側面が反映されている。一方、「猫に鯉

節の番」、「猫の食い残し」、「猫の逆恨み」などの猫の諺では「信頼できない、だらしない、執念深い」点だけが強調されている。

猫に関する英語の複合語と句では、イギリス人は猫を「ずるい、いい加減な、うるさい」とみなし、決して良い印象を抱いていない。ところが、Cat after kind, a good mouse-hunt. という諺では、「猫は鼠を捕るのがうまい」ことを素直にほめている。一方、The cat knows whose lips she licks well enough. は猫の賢さよりむしろ猫のずる賢さを示す。The cat shuts its eyes while it steals cream. は猫の悪の意識の低さを示唆している。

日本人は猫の習性を高く評価していないが、イギリス人は猫のずるさやだらしさを批判している一方で、鼠捕りに対する猫の能力は率直に認めている。

4 馬の諺

馬に関する表現には日本の歴史の長さや文化の奥深さを表すものがある。「馬面、馬の骨、馬に経文」のような諺からは日本人が馬の顔や頭脳を見下してきたことがわかる。これとは逆に、「馬が合う」や「馬は武士の宝」のような諺から、馬が大切な存在であったことがわかる。

馬にまつわる英語の表現のうち、work like a horse や be strong as a horse などから、意味の基本は馬の大きさと力の強さにあることがわかる。horse marine「騎馬水兵、ありえないもの」という語は日本語の「馬筏」や「馬は蹄の腐るまで浮く、牛は尾の腐るまで浮く」という諺から窺える「水に強い馬」という日本人の認識と対立する。一方、Horses, dogs, and servants devour many. には、馬は金がかかるというイギリス人の感慨がよく反映されている。

日本では馬の価値や存在感が薄れつつあるが、イギリスでは馬はいまだに人々の生活に深く根付いている。

5 豚の諺

豚にまつわる表現は「豚草、豚小屋」の2例のみであり、諺も「豚に念仏(猫に経)」、「豚を抱いて臭きを知らず」を含む5例のみである。日本人にとって豚は臭くて不格好な存在なのであろう。

豚は英語の場合でも「不潔、貪欲」のイメージが強いが、pigboat「潜水艦」、pig lead「生子鉛」、pigskin「豚革」などの語句にはそのような含意はない。一方、piggish「貪欲な、不潔な」、pigheaded「強情な」、pigpen「不潔な場所」などの語と、Pigs fly in the air with their tails forward. などの諺から、イギリス人の豚に対する評価の低さがわかる。

豚は実際は清潔好きで賢い動物だと言う人がいるが、日英の諺に関する限り評価は芳しくない。

6 まとめ

日本語と英語の動物にまつわる諺を比較すると、イギリス人より日本人の方が動物に手厳しい場合が多く、また、日本の諺の方が逆説的な表現が多い。英語の諺には素直な表現が多く、諺であると指摘されないと気づかないものも少なくない。今回、動物の諺から日英の文化の特徴の一端を探ろうとしたが、皮肉なことに、動物に対する評価を盛り込んでいない諺以外の語句に歴史や文化の情報が多数含まれていることがわかった。

講演後の質疑応答も活発で、楽しいひと時であった。

茗溪会の顕彰《茗溪賞》

本年度の茗溪会顕彰《茗溪賞》は、11月25日(月)に東京・茗溪会館で顕彰式と祝賀会を行いました。茗溪会は、公益事業として、一般社会人の社会貢献活動・人材育成活動や筑波大学大学院生の社会貢献活動及び芸術等の分野で筑波大学生・大学院生の優れた作品を顕彰しています。今回は、一般社会人を対象とし茗溪賞選考委員会により、団体、個人の各5件が対象となり、江田昌佑理事長の承認を得て決定しました。顕彰式では、江田理事長がそれぞれの功績を記してある茗溪賞を読み上げ、顕彰しました。東京新聞社から原尚子記者が来られ、理事長や顕彰者への取材もありました。来賓の門脇邦彦氏は「本日の皆さんのお顔の表情はとても素晴らしい。まさに天台宗宗祖最澄上人の言う『一隅を照らす、これすなわち、国の宝なり』」と受賞者を讃えました。受賞者のスピーチは、代表の岡田一枝さんにはじまり、お一人ずつ心のこもった活動内容の説明があり、お互いを高め合う交流の場となりました。

受賞者紹介

(順不同・敬称略)

団体

ふるさとつくば ゆいまつり実行委員会

(代表学生 中川沙羅葉) 茨城県

筑波大学生が、学生と地域住民とが祭りを通して「ゆい(つながり)」を深めるため、ダンスや大道芸、グルメ等のふるさとまつりの企画・運営を行っている。つくば市長からも「つくばを盛り上げるには、行政だけでは限界があり、若者が一生懸命やってくれるのは嬉しい。」と大きな期待が寄せられている。

彩の会

(代表 岡田 一枝) 茨城県

「彩の会」は、機織りは衣食住にかかわる、すなわち「生きる」ことの根源であると考え、多年にわたり機織り教室を主宰し、広く技術等の伝承や、若者達に対して、昔の人たちの知恵や家族を思う気持ち、物を大切にする心を伝えるための実践に尽力している。

埼玉県立所沢西高等学校

ボランティア実行委員会

(代表生徒 玉田 尚子) 埼玉県

同実行委員会は、東日本大震災の被害に遭った福島県立いわき海星高校のために、現地で瓦礫の撤去作業を手伝うとともに、第85回選抜高校野球大会において吹奏楽部の生徒達が演奏で応援するなど両校の交流を推進している。

NPO法人 川越きもの散歩

(代表 藤井美登利) 埼玉県

同法人は、多年にわたり小江戸と呼ばれる川越を着物が似合う街にするために「きもの散歩」を開催している。着物で訪れる人を増やすための活動や母と子の着物体験イベントなどを通して川越が守る織物文化の伝承に努めるなど地域社会の発展に貢献している。

神奈川工科大学

防犯ボランティアサークル

KAITBLUE

(代表学生 板橋 幸音) 神奈川県

同サークルは、若い世代の地域との結びつきが減少する中で学生・地域住民・警察が一体となって地域における防犯チラシの配布など自主防犯活動を推進するとともに学生を含む若者達の知識や経験を豊かにするため活動を行なっている。

個人

鈴木 昭重

埼玉県

鈴木さんは、父と兄が川口鑄物の名譽をかけて製作した1964年の東京オリンピックの聖火台を大会終了時から家族とともにごま油で磨くなど多年に亘り保存活動を行なっている。

山地和家子

大阪府

山地さんは、還暦を迎えた1992年から20年間、ミヤンマーのマンダレーの地で障害を持つている多くの人々を対象に洋裁の指導を行っている。

橘 斌(さとし)
橘 満(みちる)

福島県

南相馬市の橘さん兄弟は、鎧を製作したり修繕する甲冑師として東日本大震災後も「伝統行事を絶やしては祖先様に申し訳ねえ。」との思いでふるさとの復興に尽くしている。

川口 幸男

埼玉県

川口さんは、趣味を活かして宮城県女川町の仮設住宅集会場に蓄音機とレコードを持ち込み、引きごもりがちな高齢者に聞かせている。瓦礫の中で流れた「リンゴの唄」などは、復興への「希望の音色」としてお年寄り達を勇気付けている。

和家 寛治

愛媛県

和家さんは、宇和町にかかるた協会を設け、45年間にわたり、小・中・高校で出前授業を行うなど小倉百人一首の普及を通して、若者達に日本語の豊かさや魅力を継承したいとの思いで活動が続けてきている。

茗溪学園だより

茗溪学園のグローバル活動

現在の中学生高校生は、グローバル化がますます進む時代を生きていきます。そして今、「グローバル教育」のあり方が問われています。

本校では、創立以来、異文化を理解し尊重する心を養うために、さまざまな国際交流活動を行い、「世界に羽ばたけ茗溪生」と応援してきました。そこで今号では、本校のグローバル活動の一部をご紹介します。

スイスCERN研修・SSH海外研修

まず、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）活動の海外研修です。本校では、「International Survey Tour and Lecture」と呼んでいます。昨年までは、アメリカのデスバレーでの地学生物分野の調査活動とカルフォルニア大学サンフランシスコ校での生物学実験でしたが、今年は物理系の内容とし、スイスにある「欧州原子核研究機構（CERN）」を研修地としました。これは、筑波大学のご協力によって実現したもので、多くの先生方にご指導を賜りました。本当にありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。

日本の高校生が当地を訪ねるのは初めてということで、本校6名の生徒達でしたが、大変貴重な体験となりました。出発前に8回、帰国後に2回、大学の

“First, I was very surprised by the structure of ALICE. There were a lot of devices to search for particles. I was also very impressed by the size of ALICE, and I was able to have a deeper understanding after seeing it for myself. I would like to say thank you to all the professors who explained everything to us.” K. H.

(ALICE ホームページに掲載された本校生徒の感想より)

先生方が特別講座を開いてくださいました。これらの講座は、物理に関心のある生徒を対象とし、CERN研修生以外からも参加者がありました。高校1・2年生には少し難しいところもありましたが、もっと物理の勉強をしてみたいとなりましたという、頼もしい感想が数多く聞かれました。

筑波大での高大連携プロジェクトへ参加

筑波大学が行っている「米軍子弟教育高大連携プロジェクト」は、日本国内外の米軍基地内で学ぶ高校生が筑波大学で実験や研究体験をするものです。今年は70名の米軍子弟が参加したそうですが、本校からも23名の生徒が参加し交流活動をさせていただきました。9月下旬4日間をかけて行われました。参加した本校生徒の感想を紹介いたします。

私は、海外歴もあり英語は得意な方でしたが、実際に英語を母国語とする同年代のアメリカ人と会話するのは思っていた以上に大変でした。しかし、とても充実した時間でした。アメリカの高校の制度は日本とは異なるようで、鍛え上げられているなあという印象でした。私も他国の人に誇れるような高校生活を送りたいと思います。たった3日間でしたが、自分の新たな自信になり、国境を越えた人間関係を築くことや、違う視点から物事を見る楽しさを学ぶことができました。(高一)



米軍基地高校生との交流
最終日、グループ毎に発表したあと
筑波大から修了証書をいただいた



ワイミヤ校の生徒達と
ビーナス像をバックに



マクリーンズ校との試合は7月に完成した
本校の人工芝グラウンドで行われた
試合は36対10で茗溪勝利

SOSEP

2009年に英国の2校との間で始めた短期の交換留学SOSEP (Study Overseas Student Exchange Program)も、5年目の今年、英国が1校になったもののオーストラリア、ニュージーランドの5校が加わり交流校は6校にまで増えました。この12月は本校から4名の生徒が、英国クライスト・カレッジを訪問しています。期間は2週間ですが、学校生活と寮生活を体験するので、キリスト教徒の生徒達との生活習慣や考え方の違いも含めて、多くの発見のある充実した生活をしています。

オセアニア・ウィーク

9月末から10月初めにかけて、オーストラリアのセントジョセフ校(20名)、ニュージーランドのワイミヤ校(15名)、マクリーンズ校(ラグビーチームで23名)、パラパラウムジュニアラグビーチーム(13歳以下のチームで13名)が次々に来校し、期せずしてオセアニア・ウィークとなりました。

それぞれホームステイや試合を含む様々な交流が行われました。多くのご家庭がホストファミリーをお引き受けくださり、積極的に国際交流を楽しんでくださいました。心より感謝申し上げます。

桐の葉のつどい

同期入学、卒業または同行のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆昭和39年卒 東京教育大学農学部総合農学科 第6回同窓会

と き 平成25年9月10日(火)
ところ 江の島「岩本楼」

この会は、平成15年以降隔年で開催し、今年は第6回を迎え13名の参加者を得た。初日は、14:00に現地集合し、地元の解説者の協力を得て約3時間の江の島めぐりを行った。坂道が多く、お互いに声をかけながらの散策であった。

翌日は、鎌倉の長谷寺、大仏、鎌倉八幡宮を訪れ、史跡の深さなどを肌で感じることができた。2020年東京オリンピックを見学しようとの活気ある話題もでた懇親会は、楽しいひと時であった。

幹事：村上芳彦、田村淳泰、横山正次



◆東京教育大学農学部林学科木材工学専攻昭和41年入学者 東京クラス会

と き 平成25年10月5日(土)
ところ 新宿『玄品』

昭和41年木材工学入学の同期16名の内東京近郊に在住する8名が集まり、旧交を温めました。団塊の世代も65歳を超え高齢者の範疇に入ってしまった我々ですが、皆元気で顔を合わせられたことを喜びあい、昔話に花が咲き、あっという間に4時間が過ぎ、次回、全員での再会を約して散会しました。

公益財団法人修養団 専務理事 山崎一紀(47農修)



◆茗溪会和歌山支部支部総会

と き 平成25年9月8日(日)
ところ ホテルアバローム紀の国

高田支部長の開会挨拶に始まり、米倉事務局長から茗溪会定時総会の報告の後、去る5月にご逝去された志賀義雄先生はじめ、亡くなられた会員のご冥福を祈り全員で黙禱を行いました。続いて行われた懇親会では、出席会員の近況報告を行い、2年後に本県で開催する国体の話題などで盛り上がりました。」(ここ数年若年会員の出席者が少ないので、是非気軽に参加してみてください!)

茗溪会和歌山支部 事務局 川口



瑞宝中綬章

井上 元	41 教大農	(茨城)
山形 和美	34 院修英	(栃木)
竹田 清彦	31 教大専	(千葉)
酒井 志郎	31 教大専	(東京)
柏木 英一	38 教大物	(神奈川)

平成二十五年秋の叙勲 おめでとうございます(敬称略)

瑞宝小綬章

日野 嘉輝	33 教大健	(北海道)
長谷川 圭作	35 教大西	(北海道)
新城 昇	28 教大農化	(埼玉)
荻野 治雄	30 教大英	(東京)
内藤 榮樹	42 教大農	(新潟)
山崎 博昭	40 教大専	(静岡)
相良 哲朗	37 教大物	(佐賀)

和田 英太郎	37 教大化	(神奈川)
角替 弘志	33 教大教	(静岡)
佐治 武志	38 教大英	(静岡)
向井 隆雄	32 教大健	(愛媛)
	36 教大専	
	39 院修化	
	42 院博化	

瑞宝双光章

佐藤 玉和	36 教大健	(千葉)
佐々木 湯沢守	31 教大動	(千葉)
川田 孝一	39 教大総農	(神奈川)

お願い 瑞宝小綬章以下については全国紙に掲載されませんので支部、本人から連絡があった方のみを掲載しています。記載もれにお気付きの方は事務局までお知らせください。

◆東京高師昭和26年文四会「水涸れず」の集い

と き 平成25年4月25日(木)
 ところ 茗溪会館占春の間

伊豆や鬼怒川で一泊してという時代もあったが、それが母校ゆかりの茗溪会館で毎年四月にというスタイルに定着して久しい。今年の出席者は金沢・小宮・佐藤(敬)・笛木・新島・宮沢・小関と万年幹事の倉木・佐藤(喜)・中村の10名。近年訃報が相次ぎ、昨秋は常連だった地理正井が鬼籍に入って寂しい次第だが、既に来年四月も会場は予約済みで一人でも多く参集し、相共に「宣揚歌」を歌いたいと願っている。

小関辰巳 記、写真提供：中村清史



◆東京高等師範学校理科一部昭和27年3月卒業(志んが里会) 平成25年会

と き 平成25年9月27日(金)
 ところ 茗溪会館紫峰の間 参加者 8名

今年は集うもの8名、それぞれに意義ある存在を確かめあい再開を期す。

加齢により全国からの年会参加困難な会員が年毎に増加の傾向があり、一時は年会中止・解散の議もでたが、協議の結果、例年の近況報告を維持することに会の存在意義認め、当面は幹事を定め定期的に近況報告を求め集約して印刷配布しながら「志んが里会」を維持継続し、あわせて年会再開の機を窺うこととした。坂本雄一 記



◆東京高等師範学校理科一部昭和27年3月卒業

と き 平成25年10月9日(水)
 ところ 茗溪会館

今年の参加者は9名、全員85歳を過ぎました。酒を酌み交わし、和気藹々のうちに近況を述べあい、楽しいひと時を過ごしました。

写真は後列左から 古村、石橋、黒羽 前列は 伊藤、井下田、渡邊(國)、飯村、山野井、五十嵐 写真・文責：飯村 博



◆TKRS4(昭和31年卒 東京教育大学理学部数学科) 懇親会

と き 平成25年10月10日(木) 午後4時〜午後6時
 ところ 茗溪会館

会の前1時間旧大塚キャンパスの周辺を散策しながら、昔日の青春の日々に思いを馳せた。しかし、60年前、私たちが学んだW館やS館等の痕跡すら見当たらなかったことには、非常な寂しさを感じた。

これまでに、恩師小林善一先生をはじめ20名の会員が鬼籍に入られ、また、年度内には会員は傘寿を迎える。諸般の事情を考慮し、今回でTKRS4の懇親会に一つの区切りをつけることにした。

幹事 野口文人、初瀬弘平(文責 初瀬)



◆東京教育大学理学部数学科 昭和38年卒同期会(卒業50周年記念)

と き 平成25年10月25日(金)
 ところ 茗溪会館

2003年からほぼ2年毎に行ってきた私達、理学部数学科昭和38年卒の同期会ですが、今年卒業後50周年を記念して行いました。名簿のメンバーの半数近い16名の出席でした。出席者の話は元気で活動している等の話は少なくなつて、健康ケアの話が目立って多くなりました。これからも2年毎に元気にまた会いましょうと皆さんで将来に向けての力強い気持ちを確かめ合った同期会となりました。

佐藤 猛(記)



◆東京教育大学英語英文科 昭和29年卒

と き 平成25年10月10日(木)
 ところ 芝浦「牡丹」

毎年行っている同窓会の写真です。すでに友人10名が他界しました。

出席者は1列目右から新井 明、築島 絢、高崎 修

2列目右から佐藤有弘、田畑 豊、森山泰夫、佐藤猛郎

幹事：佐藤有弘



追 悼 録 (敬称略)

伊藤 朗 筑波大学名誉教授 25・9・29 妻 伊藤 千鶴
 〒516-0035 伊勢市勢田町295-25
 斑目 文雄 昭13文四 25・8・26 長男 斑目 春樹
 〒112-0006 文京区小日向1-16-3
 松本 泰三 昭17農教 25・8・24 長男 松本 忠信
 〒178-0061 練馬区大泉学園町6-13-16
 吉田 一雄 昭17農教 25・8・3 長男 吉田 卓治
 〒369-1205 埼玉県大里郡寄居町末野670-1
 志賀 義雄 昭18理二 25・1・29 長男 志賀 敏雄
 〒236-0053 横浜市区金沢区能見台通り40-6
 市野 春弘 昭18体一 24・12・18 妻 市野御代子
 〒590-0521 泉南市樽井4-17-23
 斉藤 静 昭19体専 25・5・7 妻 斉藤 良子
 〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町2-1548-20
 鈴木 英久 昭19体専 25・4・6 長男 鈴木 彰一
 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町4-21-12
 佐藤俊太郎 昭20大教 25・7・30 女婿 今井理基夫
 〒960-8021 福島市霞町4-35
 中村 武 昭20臨生 25・7・31 妻 中村智佐子
 〒143-0025 大田区南馬込3-9-12
 福岡 富雄 昭20体専 24・12・3 妻 福岡 睦実
 〒689-3111 鳥取県西伯郡大山町赤坂341
 高橋 幸雄 昭22文五 25・3・13 長女 高橋由美子
 〒225-0231 相模原市中央区相模原4-5-16-901
 葭谷外余吉 昭22理一 25・11・6 妻 葭谷 喜美
 〒921-8132 金沢市しじま台2-27-4
 岡村 光三 昭22体専 25・10・5 妻 岡村 和子
 〒260-0854 千葉市中央区長洲2-11-2
 秦野多喜生 昭22農教 25・2・19 長男 秦野 天裕
 〒874-0035 別府市上人西町8-2
 藤原 良毅 昭23大教 25・5・23 娘 清水美紀子
 〒010-0967 秋田市高陽幸町12-18
 千葉 安昭 昭23文四 25・10・27 長男 千葉 清隆
 〒132-0035 江戸川区平井6-65-2
 池田 博 昭23理一 25・3・10 長男 池田 博人
 〒960-0801 伊達市霊山町掛田字町田27-1
 堀江 澄男 昭23理四 25・10・13 妻 堀江 和枝
 〒243-0003 厚木市寿町2-5-4
 肥沼誉四郎 昭23臨教 25・6・4 長女 小澤久美子
 〒112-0012 文京区大塚4-43-18
 加藤 篤夫 昭23体専 25・10・4 妻 加藤 テフ
 〒971-8188 いわき市泉もえぎ台1-20-7

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・遺族住所・氏名

大原 明 昭23農教 25・9・6 長男 大原 稔
 〒649-6444 紀の川市登尾161
 祖川 秀雄 昭23農教 25・1・22 妻 祖川 満
 〒770-0807 徳島市中前川町1-42
 宮崎 尚 昭24文三 25・10・2 妻 宮崎 和枝
 〒252-0302 相模原市南区上鶴間3480-5
 小出 卓二 昭24文四 25・1・16 妻 小出 愛子
 〒381-2235 長野市篠ノ井小松原90
 鈴木 竜雄 昭24農教 25・4・4 長男 鈴木 千春
 〒408-0312 北杜市白州町台ヶ原2229
 伊藤 重男 昭26大英 25・9・15 妻 伊藤 綾子
 〒274-0825 船橋市前原西3-7-13
 堀井常三郎 昭27文四 25・1・13 妻 堀井寿美子
 〒142-0062 品川区小山6-28-12
 長 成吉 昭28大化 25・9・9 妻 長 京子
 〒376-0006 桐生市新宿2-11-6
 大熊藤一郎 昭30教大教 25・10・18 妻 大熊 幸子
 〒353-0007 志木市柏町6-18-6
 大橋 富雄 昭32教大言 25・1・1 妻 大橋安佐子
 〒970-8026 いわき市平新田前6-5
 加藤 重行 昭32教大健 25・8・23 妻 加藤 隆子
 〒560-0031 豊中市蛍池北町3-14-14
 横山 芳明 昭33教大工芸 25・8・15 妻 横山 貞子
 〒980-0012 仙台市青葉区錦町2-5-49
 有泉 晃 昭33教大農化 25・6・4 妻 有泉 演美
 〒252-1122 綾瀬市小園南1-15-6
 森 宏枝 昭35教大植 25・7・12 姉 森 美知子
 〒227-0035 横浜市青葉区すみよし台19-40
 杉山 良也 昭35文図養成B 25・6・30 妻 杉山 稚子
 〒950-2076 新潟市西区上新栄町2-7-23
 松本 進 昭37教大法政 25・8・26 妻 松本 桂子
 〒187-0023 小平市上水新町1-9-20
 市川 美晃 昭37教大数 24・8・10 妻 市川 玲子
 〒277-0086 柏市永楽台2-3-15
 橋 陽臣 昭37教大体 25・9・4 妻 橋 恵子
 〒191-0033 日野市百草27
 高橋 伸夫 昭39教大地 25・7・13 長男 高橋 純
 〒305-0035 つくば市松代4-12-13
 杉田 鎮 昭39研 25・9・29 妻 杉田 和子
 〒179-0073 練馬区田柄4-43-14
 古久保健一 平6筑修夜企 25・5・5 妻 古久保真知子
 〒141-0031 品川区西五反田8-10-14-1202

著 書 紹 介

匂いと昆虫の巧みな世界―匂いに支配されている昆虫の不思議―

著 者 井濃内 順(昭53筑自、昭58博生)
 新書判 B 6判 164ページ 1,400円＋税 出版社 フレグランスジャーナル社
 本書は、香り選書シリーズの一冊として昆虫の「匂いの世界」とその可能性についてわかりやすく解説したものである。

昆虫は現在知られているだけでも約100万種以上、全動物種の約75パーセントを占めると言われる。昆虫が現在の繁栄を築き、進化の成功者になり得た理由は、外部環境を知るための嗅覚を研ぎすまし、匂いに敏感に反応し素早く行動する能力、独特の化学コミュニケーションの方法を発達させたことにある。多くの昆虫にとって最も重要な「生存」「繁殖」「進化」は匂いなくしては果たせなかったと言える。

本書では、ファール昆虫記でも有名なフンコロガシなどの昆虫を取り上げ、その匂いを感じる仕組みを説明し、匂いによって広がる昆虫の生きる「匂いの世界」を明らかにした。そして、地球環境や生物多様性を支えている昆虫の匂いによるコミュニケーション機能の農業への応用例なども取り上げた。

主な内容は次のようになっていいる。

- ・昆虫の進化と嗅覚
- ・匂いと行動
- ・フン虫(Dung beetle)の生態
- ・フン虫の匂い受容
- ・昆虫の鼻―触角
- ・昆虫の嗅覚中枢神経系
- ・昆虫と人間とのかわり

「ゴルフ、死ぬまで」上達するヒント」

著 者 塩田 正(昭31教大体)
 新書判191ページ 900円(税込み) 発行所 ゴルフダイジェスト社
 幡ヶ谷の体育学部には陸上競技場の横にゴルフの練習場があった。著者の塩田氏はそこで、非常勤講師だった原田盛治先生(東大卒)日本アマチュアゴルフ選手権優勝者)のゴルフの授業を受けた。それがきっかけで、著者はゴルフ記者の道に進み、実に50有余年にわたり斯界のリーダーとして活躍、今日も現役である。

本書は長いプロへの取材生活や、内外の著作物で得たゴルフの技術のヒント集である。著者は駆け出し記者の頃、カナダカップ(現ワールドカップ)の団体・個人で優勝した中村寅吉プロから、「(上手な)おめえが来たんじゃない、しょうがねえな。普段は話さないことを教えよう」という言葉をかけられた。これを聞いて「ゴルフの記者はプロに近いところまで腕を上げなければ」と、自分の腕前の上達にも精を出してきたということである。

著者は取材で得たプロの技術を「役得だ」として、自分の上達の糧にしてきた。今回の著書にはこうしたプロたちの奥義や内外の技術書、専門誌で学んだヒントが数多く開示されている。一般のゴルファーも、読んでいて「これは」と思われるヒントが二つや三つは必ず目に飛び込んでくるはずだ。また本書は、いまだに類を見ない日本のゴルフの技術変遷史ともいえる。茗溪会のゴルファーにも、レッスンに携わるプロにも是非お勧めしたい本である。

市村操一(昭36教大体)

本部だより

茗溪会拡充キャンペーン

茗溪フェローへの応募、名刺交換広告への応募など、全国各地からご協力いただき、キャンペーンの成果を得ています。引きつづきよろしくお願い申し上げます。

代議員選挙の結果

平成26・27年度の茗溪会の代議員を決めるための代議員選挙は、全国の正会員の中からの立候補届出を11月5日に締め切りましたが、候補者の定数に達しなかったため、各支部長・会長から地域・職域の単位組織ごとに候補者の推薦をいただきました。その結果、110名の候補者が出揃いましたので、12月20日選挙管理委員会により、無投票当選として、次期代議員の名簿が確定しました。名簿は、本誌平成26年春号誌上で発表します。

各総会の開催（本部理事派遣・9月以降）

10/12 新宿 10/12 新潟
11/24 東京 11/30 宮城 12/7 山梨・教養講演会
1/11 北海道・新春講演会 3/2 葛飾

卒業予定学生の就職活動に支援を

来春卒業予定の学生のために、諸先輩のご指導ご支援をお願いします。

【問い合わせ・連絡先】

筑波大学学生部就職課
企業・団体関係 電話 029-853-6091
教員・公務員関係 電話 029-853-2249

教職受験対策相談窓口

茗溪会筑波事務所

茗溪会筑波事務所では大学と連携して教職を目指す学生の「相談」を受付けています。申し込みは左記へ。
電話 029-850-1044

kyousyoku@un.tsukuba.ac.jp

教職受験対策研修会

教職を受験する学生のための講習会を今年も茗溪会主

催で開催、参加者を募集します。

平成26年3月10日(月)～12日(水) 3日間

会場 筑波研修センター

電話 029-851-5152

受講料 5,000円（茗溪会からの助成で値下げ）

第18回茗溪・筑波グランドフェスティバルのご案内

筑波大学と茗溪会の共催により、学生と前身校以来の卒業生が共に集うグランドフェスティバルは、今年も左記のとおり開かれます。

日時 平成26年1月25日(土) 13:30開会

会場 筑波大学会館(開会式、シンポジウム、懇親会)

今回のシンポジウムでは、「創ろう！東京オリンピック・パラリンピック」おもてなし×教育×筑波大学」をテーマに、2020年に向けた、本学としての関わり方とその可能性について、多方面から検討いたします。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。事前申込3,000円、当日申込4,000円
懇親会 事前申込先 MTGF実行委員会(筑波大学大学連携渉外室)付
電話 029-853-2030
Eメール mtgf@alumni.tsukuba.ac.jp

イベント詳細は本学公式ホームページ「イベント案内」

葛飾支部主催 第5回勉強会のお知らせ

日時 平成26年3月2日(日) 14時より

場所 茗溪会館

テーマ 「日本の未来の農は？」

講師

前川孝昭(筑波大学名誉教授・バイオテック研究所代表)

「藻類からのジェット燃料の製造」新しい農の形」
西郷正道(農水省大臣官房・生産振興審議官54筑二農)

「日本の未来の農林水産業」行政の立場から」

コーディネーター 徳田安伸(都立園芸高校長・55筑二農)

会費 勉強会・2,000円、交流会・6,000円

申し込み 茗溪会事務局気付

FAX 03(3941)7674で2月25日までに

葛飾支部長 渡邊 悟(62筑博農)

編集後記

・秋号の特集「筑波大学のグローバル化戦略」に続き、本号の特集は、筑波大学に留学している5人の学生と筑波大学で学位を取り、現在筑波大学で教えている人に「日本に学びたいこと、日本に学んでほしいこと」というテーマで率直な意見を書いていただきました。この特集の作成につきましては、筑波大学副学長の清水一彦氏(49教大教 51院修教 55筑博教 5修)に大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

表紙の言葉―表紙デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

東日本大震災で筑波大学も被災した。その最大のものがこのたび再建(9・18竣工)された総合体育館である。授業はもとより世界のトップ・アスリートも練習する場とあって再建が急がれた。ここから次世代を担う選手の誕生が期待される。

平成26年1月15日発行

編集兼発行人

田中正造

発行所

一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三九四一〇一三六

FAX 〇三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇二四九七七

茗溪会筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷所 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社



日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことのすべて

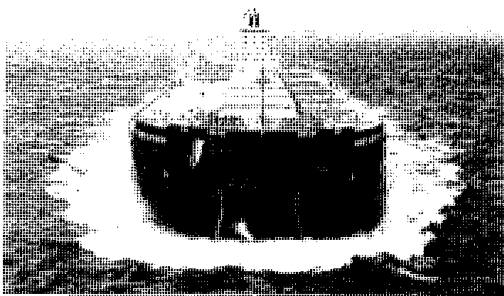
SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビル2F
TEL.03-5784-8853 (代表) FAX.03-5784-8842

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事か見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若狭会担当: 執行役員総務部長 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>

筑波大学出版会

— 筑波大学の知の発信 —

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
http://www.press.tsukuba.ac.jp/
ご注文は最寄りの書店または丸善出版へ
TEL 03(3512)3256

好評発売中

2013年
10月1日刊行



筑波大学新聞で読む 筑波大学の40年

福原直樹・伊藤純郎 編著

A4変形判・並製/230頁/1,800円+税 ISBN978-4-904074-29-9 C0036

「新聞の自由とは批判の自由」。この言葉をモットーに1974(昭和49)年10月26日、創刊された「筑波大学新聞」は、その後も順調に号を重ね、2013(平成25)年7月16日に第308号の発行を迎えました。

本書は、「筑波大学新聞」創刊号から第300号(2012年5月14日発行)のなかから100の特筆すべき紙面を選び、歴代の筑波大学新聞編集部員らが当時を振り返り、執筆したものです。

「筑波大学新聞」から読み解く、筑波大学の40年の歴史——。

一般社団法人 食医同源之会

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-43-6
オリムピアビル6F
TEL&FAX 03-3654-2410

理事 渡邊 悟 (56筑二農・62筑院博農)
http://syokuidougen.main.jp

堀内法律事務所

〒305-0025 つくば市花室1011番地
TEL 029(857)4411 FAX 029(857)4412

所長・弁護士 堀内 昭三 (35教大法政)

相続・会社等設立・著作権 etc...

行政書士 高谷真一事務所

〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号
TEL&FAX 029-821-8177

代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)

海城中学・高等学校

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1
電話 03-3209-5880

校長 水谷 弘 (昭40教大数)

学校法人国際学園

星槎大学 共生科学部

〒227-0053 横浜市青葉区さつきが丘8-80
電話 045-979-0261(代)

アドバイザー 本木 幹雄 (50教大体)
http://www.seisa.ac.jp

聖徳大学 文学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550
電話 047-365-1111(代表)

E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp

学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)

経営の本質を学び実践する者が集う研鑽の場

経営に心と道を ●業界や世代を超えた異業種交流研修
●フォーラム修了後の生涯ネットワーク

3,000名以上の修了生から400名以上の社長を輩出

KAE 山城経営研究所

山城経営研究所

検索



株式会社 十和観光

代表取締役 社長 井坂 信洋

URL http://www.juwa.com E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220



SPORTS COMPANY

スポーツ選手、文化人の
総合マネジメント&キャスティング
トレーニングジム、鍼灸整骨院、
デイサービスの運営

株式会社 スポーツカンパニー

〒130-0026 東京都墨田区両国1-16-7 朋林ビル6F
TEL 03-3635-4711 http://sportscompany.co.jp
取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)



永井建設株式会社

〒273-0115 千葉県鎌ケ谷市東道野辺3-1-7
電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケエスアイ

本社営業部 〒557-0063 大阪市西成区南津守7-15-16
☎06-6652-8888 06-6652-8484



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)1578

執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

筑波での宿泊・研修にー

ご家族で、お仲間で

最大収容180名、お一人3,600円から/茗溪会員とご家族に割引あり
研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
シングル145室 ツイン5室 和室5室/研修室2室(120・40名)
和室も研修室として利用可(20畳、10畳)
館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等(数名から80名まで)

アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
●バス/「筑波大学循環」3丁目「筑波メディカルセンター前」下車
徒歩8分 ●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人 筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

http://www.meikei.or.jp/~center e-mail:center@meikei.or.jp



(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

36年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させて頂きます。

筑波大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥220,500 ▶ ¥204,750 etc.

エクセレントコース
¥378,000 ▶ ¥362,250 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>
<http://www.bridal-vip.net/m/>

右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



36年の実績
株式会社

ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
Network/東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪



茗 溪 会 館

☆御 婚 礼

ご披露宴割引

茗溪会々員	10%
会員ご家族	5%

☆ご 会 合(祝賀会・ご法宴・研修会など)

- ・ビュッフェスタイル
- ・フランス・中華各コース料理

ご会合のことなら おまかせ下さい。

☆グ リ ル(お食事・喫茶)

(株) 茗 溪 サ ー ビ ス

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23

☎ 03-3943-0321

FAX 03-3943-0815

東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅下車徒歩2分



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 総合文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ共同) ￥ 6,300→￥ 4,500

シングルA (バス・トイレ付) ￥ 7,980→￥ 5,800

ツイン (バス・トイレ付)

￥12,810→平日￥9,800 土・祝前￥10,800

朝食バイキング ￥ 1,050→￥735

大浴場時間 : 7:00~9:00 17:00~24:30



東京都新宿区新宿6-3-2

TEL 03 (3356) 4605

FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線	新宿御苑前駅	1 番出口	} より徒歩 7 分
都営新宿線	新宿三丁目駅	C7 出口	
地下鉄副都心線	新宿三丁目駅	E2 出口	

JR新宿駅より車 5 分

茗溪会館写真スタジオ

ご婚礼・成人式・七五三・ご入学卒業写真・証明写真
家族写真・集合写真・出張撮影等・卒業アルバム作成



〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館
(株)東京科学光芸社 3 階

TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

茗溪学園中学校高等学校

茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

理事長 西野虎之介 (28農経)

校長 柴田 淳 (52体 56院修体)

〒305-8502 つくば市稲荷前1-1

<http://www.meikei.ac.jp> TEL 029(851)6611

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



SSH活動報告会

「SS研究・個人課題研究発表会」
(後援：筑波大学)開催のお知らせ

期日：平成26年1月31日(金)

10:30~14:30

会場：筑波大学・大会館

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究(優秀研究者)口頭発表ほかに、ポスター発表、その他のSS活動成果報告

一般公開いたします

お問い合わせは、下記e-mailアドレスへ



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」

e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)